

2020年度(20期生)

授業科目	国語表現 I		担当講師	三宅 えり			
開講年次	1年次期 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の表現を学び、事象を分析的・論理的に思考する方法や、表現力を身につける。 ・論理的な思考を身につける。 ・看護研究、看護セミナーにむけて発展させる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語表現とは 2. 文章表現について <ol style="list-style-type: none"> 1) 段落の役割について 2) 「事実」と「意見」について 3) 要約について 4) 引用の仕方と注の付け方について 3. 言葉の使い分けについて <ol style="list-style-type: none"> 1) 待遇表現について 2) スピーチの作成と発表 テーマ「言葉の使い分けについて」 4. 文章の作成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日誌 2) 手紙 3) 小論文 テーマ「尊厳死について」 4) 小論文鑑賞会 						
評価方法	授業中の課題への取り組み、および、最終課題の小論文によって評価する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

授業科目	国語表現Ⅱ		担当講師	三宅 えり			
開講年次	2年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な思考を身につけるとともに、自己の表現を通して看護行為に必要な他者理解をめざす。 ・看護研究、看護セミナーにむけて発展させる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語のトレーニングⅠ <ol style="list-style-type: none"> 1) 待遇表現 2) 和語・漢語・外来語 2. データの活用 <ol style="list-style-type: none"> 1) データの分析 2) データの収集 3) データをもとにしたプレゼンテーション 4) データをもとにした小論文の作成 3. 日本語のトレーニングⅡ <ol style="list-style-type: none"> 1) 同音・同訓異義語 2) 類義語・対義語 4. 小論文鑑賞会 テーマ「看護師と言葉」 						
評価方法	授業中の課題への取り組み、および、最終課題の小論文によって評価する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

授業科目	情報科学		担当講師	小澤 克彦			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書が作成できるようになる。 ・エクセルでデータ処理ができるようになる。 ・パワーポイントでプレゼンテーション資料が作成できるようになる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Windowsの基本操作。 USBメモリーの扱い方。 バックアップの取り方。 2. WORDの基本操作 文書の体裁を整える。 3. ビジネス文書の作成 (1) 基本パターンの学習 表の作成 4. ビジネス文書の作成 (2) 段落と箇条書き 5. 便利な機能 拡張書式、ヘッダー・フッター、改ページ等。 6. 社内文書 ワードアートの活用、オートシェイプ等。 7. EXCELの基本的な関数 (1) 合計、平均、相対番地・絶対番地。 8. EXCELの基本的な関数 (2) COUNT・COUNTA、IF。 9. EXCELの基本的な関数 (3) 複雑なIF。 10. EXCELの関数の活用 (1) 端数処理 (ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN) 11. EXCELの関数の活用 (2) VLOOKUP、HLOOKUP 12. EXCEL データベース関数 13. EXCELのグラフ 14. POWER POINTの基本操作 スライドの作成、デザインの変更、クリップアート。 15. POWER POINTの資料作成 配布資料の作成方法 スライドショーの効果的な設定。 						
評価方法	毎時間の課題、小テスト、最終課題、授業態度を総合的に評価する。						
教科書	「情報リテラシー アプリ編」FOM出版						
参考書等							

授業科目	心のしくみと行動		担当講師	高松 みどり			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の主要な領域について、基本的な考え方・知識を学ぶ。 ・体験的な学習を通して自己理解・他者理解を深め、さらに日常的に何気なく行っている事柄について心理学的な視点から振り返る。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは何か 2. 性格（性格とは？・性格検査） 3. 知覚（視覚の不思議） 4. 記憶（記憶のしくみ・忘却の理論） 5. 学習（学習の理論） 6. 思考（問題解決・推理） 7. 言語（言語能力の発達） 8. 知能（知能の測定） 9. 社会心理（集団行動・対人関係） 10. 発達 11. カウンセリング・心理療法 						
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座 基礎分野 心理学」 医学書院						
参考書							

授業科目	生活と文化		担当講師	金 瑛			
	開講年次	2年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態
科目概要	<p>本講義では主に社会学や文化人類学における重要な理論を紹介する。理論とは人々の生活や文化を捉える枠組や視点のことである。講義は日常生活における具体的事例を取り上げながら進めるが、その際、受講生には自分自身の経験を振り返る（外から眺める）という作業をしてもらうことになる。人間や社会を客観的に見るということは看護師として必要な能力の一つであり、ぜひ意欲的に授業に臨むよう期待する。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要・進め方・評価の方法について（社会学とは何か） 2. 社会学的発想に慣れるⅠ（「行為論」） 3. 社会学的発想に慣れるⅡ（「役割演技」「印象操作」） 4. DVD視聴・小レポート提出 5. 現実社会的に作られるⅠ（「構築主義」） 6. 現実社会的に作られるⅡ（「ラベリング論」） 7. 現実社会的に作られるⅢ（小レポートに向けてのまとめ） 8. DVD視聴・小レポート提出 9. 政治と権力Ⅰ（人はなぜ服従するのか） 10. 政治と権力Ⅱ（権力のさまざまな形） 11. 政治と権力Ⅲ（メディアと権力の関係） 12. DVD視聴・小レポート提出 13. 現代社会論Ⅰ（労働と消費） 14. 現代社会論Ⅱ（リスクとグローバル化） 15. まとめ、試験の概要の説明 <p>※数回、映画等の視聴を行い、小レポートを書いてもらいます。</p>						
評価方法	小レポート（30%）、試験（穴埋め、筆記）（70%）						
教科書	現代位相研究所編、2010、『フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる 社会学』日本実業出版社。						
参考書	作田啓一他編、2011、『命題コレクション 社会学』、ちくま学芸文庫。 教科書の補足として、適宜、プリントを配布する。						

授業科目	人間工学		担当講師	福村 肇			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間を取り巻く人工物、システムや環境などの効率や安全性、快適性を向上させるための人間工学を理解し看護に応用できる知識を身につける。 ・身近にある部品や空間などを対象に、看護の視点から人間工学を学ぶ。 ・作業システムの効率を上げ、エラーを防ぎ安全性を保ち、快適な作業環境を作る方法を学ぶ。 						
授業計画	<p>1回目 人間工学とは：基礎から看護と人間工学の関わりについて</p> <p>2回目 人間の特性（物理的特性/生理的特性）と能力</p> <p>3回目 ボディメカニクスについて：効率的な身体の使い方</p> <p>4回目 ボディメカニクスについて：姿勢，力，圧力</p> <p>5回目 ボディメカニクスを理解する為の力学：ベクトル</p> <p>6回目 ボディメカニクスを理解する為の力学：てこの原理</p> <p>7回目 ボディメカニクスを理解する為の力学：トルク</p> <p>8回目 看護ボディメカニクス：看護の負担を軽減する為に</p> <p>9回目 看護ボディメカニクス：看護の負担を軽減する為に</p> <p>10回目 看護ボディメカニクス：看護の負担を軽減する為に</p> <p>11回目 看護の安全と人間工学：ヒューマンエラーとは～人はなぜ間違えてしまうのか</p> <p>12回目 ヒューマンエラーと人間特性：生理学的特性，認知的特性，社会的特性</p> <p>13回目 医療事故を起こさないために：人は誤る事を前提にその対策を考える</p> <p>14回目 総復習</p> <p>15回目 総復習＋定期試験</p>						
評価方法	筆記試験						
教科書	河野龍太郎著：医療におけるヒューマンエラー なぜ間違えるどう防ぐ 医学書院 小川 鑛一著：イラストで学ぶ看護人間工学 東京電機大学出版局						
参考書	小川鑛一著：看護・介護を助ける姿勢と動作 東京電機大学出版局 D. A. ノーマン著：誰のためのデザイン？増補・改訂版 ー認知科学者のデザイン原論 新曜社 佐藤和良著：看護学生のための物理学 医学書院						

授業科目	教育と人間		担当講師	山本直子			
開講年次	2年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義
科目概要	「教育」に関する基礎的な事象について解説を行う。さらに、各回のテーマについて意見交流や議論などを通じて、それらの理解を深めてもらいたい。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション テーマ1；「軍国主義教育と学校、教師、子ども（～1945年）」 2. テーマ1を映像から深める 3. テーマ1についての検討、議論 4. 講義 5. 日本国憲法と戦後教育の基本理念 ～教育基本法（旧法）を読む～ 6. 講義 7. テーマ2； 管理主義教育と「落ちこぼれ」問題（1970年代） 8. テーマ2を映像から深める 9. テーマ2についての検討、議論 10. 講義 11. テーマ3；現在の日本社会と教育（1990年代～） 12. テーマ3を映像から深める 13. テーマ3についての検討、議論 14. 講義 15. 全体のまとめ～「学ぶこと」の意味を考える～ 						
評価方法	グループ活動への参加：50% レポート（レポート検討を含む）：50%						
教科書	テキストは特に指定しないが、各回の授業で資料について適宜指示する。						
参考書							

授業科目	人間関係論		担当講師	伊藤 大輔			
開講年次	1年次前・後期	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 60時間	授業形態	講義・演習
科目概要	同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。こと医療の現場でも同様のことがいわれている。原因として、挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いことがあげられるだろう。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。職場においても患者やその家族、医師、同僚、先輩、後輩の看護師他 日々必ず他者とかかわらなければならない。そのためにこの教科では、まず、相手を知り、相手を認めることの大切さや、コミュニケーションを上手にとり、楽しい生き方をするための人間関係の築きかたを実験的に学び、医療現場での人間関係 患者とその家族、医師、看護師および学生間での人間関係に探求する。						
授業計画	第1回 人間関係論概論 第2回 集団的人間関係論 第3回 印象形成と対人認知1 第4回 印象形成と対人認知2 第5回 自己実現 第6回 自己PR法 第7回 非言語的コミュニケーション1 第8回 非言語的コミュニケーション2 第9回 コミュニケーションの阻害要因 第10回 パーソナルコミュニケーションとマスコミュニケーション 第11回 カウンセリング1 第12回 カウンセリング2 第13回 カウンセリング3 第14回 グループコンセンサス1 第15回 グループコンセンサス2 第16回 グループコンセンサス3 第17回 医師と患者の感情 第18回 価値観と人間関係 第19回 論理的人間関係1 第20回 論理的人間関係2 第21回 論理的人間関係3 第22回 論理的人間関係4 第23回 論理的人間関係5 第24回 論理的人間関係6 第25回 論理的人間関係7 第26回 チーム医療1 第27回 チーム医療2 第28回 医療現場での人間関係1 第29回 医療現場での人間関係2 第30回 クラスの人間関係			授業オリエンテーション 体験学習概論 向き合うとは 関わること「心の緊張をほぐす デートゲーム」 印象ゲーム 印象テスト 自己の印象を知る ジョハリの窓 自己開示法とフィードバック 目的志向型に生きるとは コミュニケーションツールの作成 ノンバーバルコミュニケーションワーク1 ノンバーバルコミュニケーションワーク2 一方向のコミュニケーションと双方向のコミュニケーション 私の私 私が思っている私と他者が思っている私 援助的コミュニケーション カウンセリングの考え方 傾聴法 人間関係を築く面接技法 グループエンカウンター 形成 イニシアティブゲーム 合意形成とは 価値の順位 サバイバル QOLとインフォームドコンセント「不妊治療の現場から」 価値観とは 自己の価値観と他者の価値観 ディベートとは 役割分担 テーマ選択 立論の立て方 反駁の仕方 模擬ディベート ディベート演習1 ディベート演習2 ディベート演習3まとめ 相互理解と納得話法 医療ミスをおこさない人間関係 「医療かるたづくり」 医療ミスをおこさない人間関係 「医療かるたづくり」 終末期の患者と家族を支える人間関係 スピリチュアルケア 患者との相互関係の構築とケア 問題解決型ワークショップ まとめとふりかえり			
評価方法	毎時レポートおよび期末レポート、演習での評価に加え、受講態度をあわせた総合評価とする。この授業は演習を中心とした参加体験型で行うので、毎回学生の主体的、積極的な受講態度が求められる。						
教科書	特に定めない。必要に応じてプリント教材の配布を行う。ノートを1冊ご用意ください。						
参考書	「系統看護学講座 基礎分野 「人間関係論」」 「人間関係トレーニング」～私を育てる教育への人間学的アプローチ～ 「Creative Human relations」 「自分探しの心理学」 「実践・論理思考トレーニング」 他 人間および人間関係の理解と充実に役立つ文献を授業中に紹介する。						

授業科目	外国語（英会話）		担当講師	David de Pury			
開講年次	2年次前期	選択必須	選択	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義
科目概要	各国の言語を学び、その国の文化・歴史にふれ、国際社会に対応できる会話を身につける。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 1. Checking In 1 2. Personal History 8 3. Admission and Orientation to the Hospital Routine 15 4. Daily Activities 21 5. Pain 28 6. Clinical History 35 7. Vital Signs and Physical Assessment 44 8. Positioning the Patient in Bed and Making the Bed 50 9. Bath and Comfort 57 10. Procedures 63 11. Tests 71 12. Patient Teaching 78 13. Exercise 14. Exercise 						
評価方法	筆記試験						
教科書	ナンシー・シャーツ - ホプロコ 著 「臨床看護英語」 医学書院						
参考書							

授業科目	外国語（ポルトガル語）		担当講師	住田育法、アナ・クリスチーナ・アケミ・ヤマモト			
開講年次	2年次前期	選択必須	選択	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義
科目概要	各国の言語を学び、その国の文化・歴史にふれ、国際社会に対応できる会話を身につける。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブラジルの人と文化を知る 2. 私はだれ 挨拶、紹介 動詞 s e r 3. 動詞の活用 名詞の性 4. 地域のことをたずねられたら 5. 受診にきたら 6. 入院してきたら 7. ひとのからだ 病気の検査 8. 事故による怪我 手術 9. 妊娠 お産 お産のあと 授乳 10. 小児科のこと 11. 診療所にて 病気と治療 12. 病院で治療 家庭で療養 13. 患者さんとおしゃべり 14. ブラジルの歴史と社会を知る 						
評価方法	筆記試験						
教科書	「生きたブラジルポルトガル語 初級」			同学社			
参考書							

授業科目	スポーツ・レクリエーション		担当講師	橋本 和俊			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 45時間	授業形態	講義 実技
科目概要	<p>スポーツ・レクリエーションは生涯を通じた身体活動として健康・疾病予防の点からも今後ますます重要になると考えられます。その中でも、自然を通じた様々な活動は体力維持・向上だけでなく、精神的側面からの効果も期待されます。本授業では、主に自然の中での活動を通し、生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる知識・能力の獲得を目指します。尚、本授業ではオリエンテーション時に決定した日時において週末の1日を利用した野外におけるプログラムを実施します。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. アイスブレイキング 3. 仲間作り野外ゲーム① 4. 仲間作り野外ゲーム② 5. ニュースポーツ① 6. ニュースポーツ② 7. ネイチャーゲーム 8. } 9. } Day Camp (野外クッキングなど) 10. } 11. ネイチャークラフト 12. } 13. } Day Trekking 14. } 15. 予備日 (ニュースポーツまとめ) 						
評価方法	<p>出席50% 参加態度30% レポート20%</p>						
教科書	適宜資料を配布する。						
参考書							

授業科目	芸術（絵画）		担当講師	吉山 輝幸			
開講年次	2年次前期	選択必須	選択	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	創作
科目概要	創作活動や作品鑑賞を通して感性を高めるとともに、自己表現力を身につける。						
授業計画	<p>1. 鉛筆デッサンの基礎Ⅰ・・・ 幾何形体「立方体」（石こう） 2. 鉛筆デッサンの基礎Ⅰ 幾何形体「円柱」（石こう） 3. 鉛筆デッサンの基礎Ⅰ 幾何形体「球」（石こう） 4. 鉛筆デッサンの基礎Ⅱ・・・ 「静物」 5. 水彩画「花を描く」 6. 水彩画「風景を描く」 7. 鉛筆デッサンの基礎Ⅲ・・・ 人体石こう像「胸像」A. 8. 鉛筆デッサンの基礎Ⅲ 人体石こう像「胸像」B. 9. 木炭デッサン 人体石こう像「胸像」A. 10. 木炭デッサン 人体石こう像「胸像」B. 11. アクリル画「花を描く」 12. アクリル画「風景を描く」 13. アクリル画「人物を描く」 14. 卒業制作 15. 卒業制作</p> <p><個人> ・鉛筆（HB～6B） ・スケッチブック（B3） ・キャンバス（F・10号） ・透明水彩絵具セット ・アクリル絵具セット ・練り消しゴム</p> <p><学校備品> ・石こう（立方体・円柱・球） ・人体石こう（胸像） ・カルトン ・イーゼル</p>						
評価方法	出席日数・作品提出						
教科書							
参考書							

授業科目	芸術（陶芸）		担当講師	上田 健次			
開講年次	2年次前期	選択必須	選択	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	創作
科目概要	創作活動や作品鑑賞を通して感性を高めるとともに、自己表現力を身につける。						
授業計画	1. 陶芸(焼もの) について		作業場見学			講義	
	2. 粘土にふれる		自由作			実習	
	3. 人と焼もの係り		日本・世界のやきもの			講義	
	4. 茶碗を造る		抹茶茶碗、飯茶碗、湯呑			実習	
	5. 花入を造る		花瓶、水盤			実習	
	6. お皿を造る		得意メニのうつわを			実習	
	7. 陶芸展観賞		陶芸館、伝統産業会館			観賞	
	8. レリーフを造る		表現力			実習	
	9. 動物を造る		十二支			実習	
	10. 陶土採掘場、精練工場、古窯跡					見学	
	11. 陶板を造る					実習	
	12～14. 文化祭出品作					実習	
	15. 求詳会 希望により実習						
評価方法	熱意・表現力と作品提出						
教科書							
参考書							

授業科目	人体の構造と機能 I		講師	相見 良成			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	人体の運動、代謝および生殖に関連する諸器官の構造と機能を学び理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none">1. 解剖学・生理学とはなにか？（イントロダクション）2. 循環器系3. 呼吸器系4. 消化器系と代謝						
評価方法	筆記試験						
教科書	エレイン N マリーブ著 林正健二・浅見一羊他訳 「人体の構造と機能」医学書院						
参考書書							

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ		講師	相見 良成			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	人体の運動、代謝および生殖に関連する諸器官の構造と機能を学び理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨格系 2. 筋系 3. 細胞と組織 4. 泌尿器系 5. 生殖器系 <p>* 模擬試験</p> <p>* 総復習</p>						
評価方法	筆記試験						
教科書	エレイン N マリーブ著 林正健二・浅見一羊他訳 「人体の構造と機能」医学書院						
教科書							

授業科目	人体の構造と機能Ⅲ		講師	豊田 太			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1 単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生命維持に必要な人体の防御と調節・刺激の受容について理解できる。 ・生活者としての人を観る基礎となる人体の構造と機能を学ぶ。 						
授業計画	<p>1. 皮膚と膜</p> <p>人体の膜の分類 皮膚（外皮系） 皮膚の膜の発生・発達・老化 皮膚の付属器官 皮膚のホメオスタシスの失調</p> <p>2. 神経系</p> <p>中枢神経と末梢神経 シナプスの構造と機能 興奮の伝導のしくみ 脊髄・脳幹・小脳・間脳・大脳の機能 大脳基底核の機能 古皮質・視床下部 脳室・脳脊髄液の流れ</p> <p>3. 特殊感覚</p> <p>眼と視覚 眼球の構造 聴覚と平衡感覚 味覚と嗅覚</p>						
評価方法	筆記試験						
教科書	エレイン N マリーブ著 林正健二・浅見一羊他訳 「人体の構造と機能」医学書院						
参考書							

授業科目	人体の構造と機能Ⅳ		講師	豊田 太			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1 単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生命維持に必要な人体の防御と調節・刺激の受容について理解できる。 ・生活者としての人を観る基礎となる人体の構造と機能を学ぶ。 						
授業計画	<p>1. 内分泌系</p> <p>内分泌と外分泌 ホルモンの構造と作用機序 主な内分泌器官 ホルモンの分泌調節 各種ホルモンの機能 内分泌異常と病気</p> <p>2. 血液</p> <p>血液の成分と血漿成分 血液型と輸血 血液凝固・線溶 D I C・血友病 造血のしくみ 血液の病気</p> <p>3. 生体防御機構</p> <p>リンパ系 自然免疫 マクロファージ、好中球、NK細胞 抗体とその構造・機能 後天性免疫不全症候群について</p>						
評価方法	筆記試験						
教科書	エレイン N マリーブ著 林正健二・浅見一羊他訳 「人体の構造と機能」 医学書院						
参考書							

授業科目	代謝と栄養 I		講師	蓮元 憲祐・石原 安信			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	人体を構成している物質の性質とその代謝を学び、生体活動のメカニズムを理解する。						
授業計画	<p>I 生体を構成する物質</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学を学ぶ基礎知識 2. 糖質 3. 脂質 4. タンパク質 5. 核酸 6. 水と無機質 <p>II 生体内の物質代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 代謝概要 8. 酵素 9. ビタミンと補酵素 10. 糖質代謝 11. 脂質代謝 12. タンパク質代謝 13. 核酸代謝 14. 遺伝情報 						
評価方法	筆記試験（50%）、小テスト（40%）、受講態度（10%）の総合評価						
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能2 生化学」医学書院						
参考書							

授業科目	代謝と栄養Ⅱ		講師	谷口美津子			
開講年次	1年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の維持・回復に必要な栄養と食事療法の基本について理解する。 ・ライフサイクルに応じた栄養のあり方を理解する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活・栄養の意義 2. 栄養素 (炭水化物・脂質) 3. 栄養素 (タンパク質・無機質・ビタミン) 4. 栄養素の摂取、消化 5. 栄養素の吸収、排泄 6. ライフサイクルと栄養 (乳児・幼児・学童期・思春期) 7. ライフサイクルと栄養 (成人・老年・妊婦) 8. 食品と栄養 (総論・各論) 9. 疾病と栄養 (総論) 10. 疾病と栄養 (各論1) 11. 疾病と栄養 (各論2) 12. 疾病と栄養 (各論3) 13・14 調理実習 (治療食) 						
評価方法	筆記試験						
教科書	「わかりやすい栄養学 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際」 ニューベルヒロカワ 「糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版」 日本糖尿病協会・文光堂						
参考書							

授業科目	人体と微生物		講師	福堀 順敏			
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 45時間	授業形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物が人体におよぼす影響および病原微生物の感染予防について学ぶ。感染・滅菌・消毒について詳しく学ぶ。 ・特に新興・再興感染症薬剤耐性菌についての対策を考える。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の基礎（1）微生物とはなにか 2. 微生物学の基礎（2）微生物の一般性状 3. 微生物学の基礎（3）微生物の滅菌と消毒 4. 微生物学の基礎（4）微生物に対する化学療法 5. 微生物学の基礎（5）微生物の検査方法 6. 微生物の感染（1）微生物のヒトへの感染 7. 微生物の感染（2）日和見感染と院内感染 8. 病原微生物各論（1）病原細菌1 9. 病原微生物各論（2）病原細菌2 10. 病原微生物各論（3）病原細菌3 11. 病原微生物各論（4）病原真菌 12. 病原微生物各論（5）病原原虫 13. 病原微生物各論（6）病原ウイルス1 14. 病原微生物各論（7）病原ウイルス2 15. 病原微生物各論（8）病原ウイルス3 16. 感染予防対策（1）感染予防・予防接種 17. 感染予防対策（2）感染症の疫学 18. 免疫（1）免疫とは何か 19. 免疫（2）液性免疫 20. 免疫（3）細胞性免疫 21. 免疫（4）アレルギー 22. 免疫（5）免疫不全症と自己免疫病 						
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4]微生物学」 医学書院						
参考書							

授業科目	病因論		講師	杉原 洋行			
開講年次	1年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業形態	講義・演習
科目概要	人間の生活を調整するために、健康から疾病に至る身体内部の変化について理解を深める。						
授業計画	<p>第1回 1. 病気になるということ</p> <p>1) 内因と外因</p> <p>2) 病態を織りなす縦糸と横糸</p> <p>3) ホメオスタシスと急性の変化、慢性の変化</p> <p>2. 細胞社会の量的変化：細胞交替とその障害</p> <p>1) 細胞の増殖、分化と死</p> <p>2) 細胞集団のサイズの変化：萎縮と生長（過形成、腫瘍）</p> <p>第2回 3. 細胞の変化</p> <p>1) 変性と壊死、アポトーシス</p> <p>2) 代謝異常</p> <p>3) 細胞のサイズの変化：萎縮と肥大</p> <p>4. 個体から個体への遺伝</p> <p>1) 優性と劣性</p> <p>2) 遺伝と進化</p> <p>第3回 5. 体細胞から体細胞への遺伝：腫瘍と先天異常</p> <p>1) 優性遺伝子と劣性遺伝子</p> <p>2) 腫瘍の本態、腫瘍を臨床でどう扱うか</p> <p>3) 先天異常</p> <p>第4回 6. 循環障害</p> <p>1) うっ血と浮腫</p> <p>2) 止血と出血傾向、血栓と塞栓</p> <p>3) リンパ系と胸水・腹水</p> <p>第5回 7. 細胞社会の維持：炎症と免疫</p> <p>1) 炎症の急性と慢性</p> <p>2) 細菌の進化と免疫系の進化</p> <p>3) 免疫の2つの顔：排除と寛容</p> <p>第6回 8. 細胞社会の変質</p> <p>1) 感染防御免疫とアレルギーとの関係</p> <p>2) 老化</p> <p>第7回 9. 死と病理解剖</p>						
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」医学書院						
参考書							

授業科目	病気と検査		講師	岡 林 旅 人			
開講年次	1年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業形態	講義・演習
科目概要	血液検査の意義や検査値の臨床病理的な意味、検査結果の解釈の仕方を学び、病態と関連付けて理解する。						
授業計画	<p>1. 臨床検査とその役割</p> <p>2. 臨床検査の流れと看護師の役割</p> <p>3. 一般検査</p> <p style="margin-left: 40px;">1) 尿検査 2) 便検査 3) 穿刺液検査 4) 脳脊髄液（髄液）検査 5) 関節液検査 6) 消化液検査</p> <p>4. 血液検査</p> <p style="margin-left: 40px;">1) 赤血球沈降速度（赤沈/血沈）検査 2) 血球検査 3) 出血・凝固検査 4) 骨髓検査</p> <p>5. 化学検査</p> <p style="margin-left: 40px;">1) 血清タンパク質の検査 2) 血清酵素の検査 3) 糖代謝の検査 4) 脂質代謝の検査 5) 胆汁排泄関連物質の検査 6) 腎機能の検査 7) 窒素化合物の検査 8) 水・電解質の検査 9) 血液ガス分析 10) 鉄代謝関連検査</p> <p>6. 免疫・血清検査</p> <p style="margin-left: 40px;">1) 炎症マーカーの検査 2) 自己抗体の検査 3) アレルギー検査—アレルゲン検索 4) 輸血に関する検査</p> <p>7. ホルモン検査</p> <p style="margin-left: 40px;">1) 下垂体前葉・後葉ホルモンの検査 2) 甲状腺ホルモンの検査 3) 副腎皮質・髄質ホルモンの検査 4) 性線ホルモンの検査</p>						
評価方法	筆記試験						
教科書	「系統看護学講座 別巻 臨床検査」医学書院 「検査値 早わかりガイド」医学芸術社						
参考書							

授業科目	病態治療論 I (生命維持機能の障害：呼吸)			講師	藤田 琢也		
開講年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (14)	授業 形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生活者としての人間の健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生命維持機能の障害を理解する。 ・呼吸障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症 <ul style="list-style-type: none"> ・かぜ ・インフルエンザ ・肺炎 ・結核 2) 間質性肺疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・塵肺 3) 気道疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・気管支喘息 ・気管支拡張症 ・慢性閉塞性肺疾患 4) 肺血栓塞栓症 5) 呼吸不全 6) 肺腫瘍 7) 胸膜・縦隔の疾患 						
評価方法	筆記試験。本科目は、呼吸の単元50点、循環の単元50点、合計100点の試験を行う。それぞれの単元で60% (30点) 以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論 I (生命維持機能の障害 : 循環・体温)			講師	川嶋 剛史		
開講年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (16)	授業 形態	講義・演習
科目概要	<p>・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。</p> <p>・循環・体温維持機能障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓・血管系の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 虚血性心疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・狭心症 ・心筋梗塞 2) 心不全 3) 血圧異常 <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧 ・低血圧 4) 不整脈 5) 弁膜症 <ul style="list-style-type: none"> ・僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症 ・大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症 ・心内膜炎 6) 心膜炎 <ul style="list-style-type: none"> ・心タンポナーデ 7) 動脈系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・大動脈瘤 8) 静脈系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・血栓性静脈炎 ・静脈瘤 9) リンパ管炎 						
評価方法	筆記試験。本科目は、呼吸の単元50点、循環の単元50点、合計100点の試験を行う。それぞれの単元で60% (30点) 以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅱ (消化機能の障害①)			講師	八木 勇 紀		
開講年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (12)	授業 形態	講義・演習
科目概要	<p>・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。</p> <p>・消化機能に障害を起こす疾患の、病態生理と検査、治療法（内科的）について学ぶ。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断の基礎と検査 4. 主な疾患と内科的治療法 <ul style="list-style-type: none"> <食道・胃・腸の疾患> <ul style="list-style-type: none"> ・食道癌 ・胃食道逆流症 ・胃炎 ・胃十二指腸潰瘍 ・胃癌 ・腸炎（急性腸炎、感染性腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性大腸炎） ・腸結核 ・イレウス ・大腸癌 ・大腸ポリープ <肝臓・胆嚢・膵臓の疾患> <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎（急性肝炎、慢性肝炎、劇症肝炎） ・肝硬変 ・肝癌 ・胆嚢炎 ・胆道癌 ・胆嚢結石 ・膵炎（急性膵炎、慢性膵炎） ・膵臓癌 5. 画像診断によるグループワーク（演習） 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、消化機能障害①の単元40点、消化機能障害②の単元60点、100点の試験を行う。それぞれの単元で60%（①は24点、②は36点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅱ (消化機能の障害)			講師	池田 房夫		
開講年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (12)	授業 形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・消化機能に障害をおこす疾患の病態生理と検査、治療（外科的）について学ぶ。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断の基礎と検査 4. 消化管の手術と術前術後管理 5. 肝・胆・膵の手術と術前術後管理 6. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食道癌 2) 胃癌 3) 結腸癌 4) 直腸癌 5) 虫垂炎 6) 腸閉塞 7) 肝癌 8) その他 7. 画像診断によるグループワーク（演習） 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、消化機能障害①の単元40点、消化機能障害②の単元60点、100点の試験を行う。それぞれの単元で60%（①は24点、②は36点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅱ (消化機能の障害③)			講師	角 熊 雅 彦		
開講年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (4)	授業 形態	講義・演習
科目概要	<p>・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。</p> <p>・消化機能に障害を起こす疾患の、病態生理と検査、治療法（歯科・口腔外科）について学ぶ。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯・口腔の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 検査と治療・処置 4. 主な疾患と歯科・口腔外科的治療法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 歯の異常と疾患 2) 歯周組織の疾患 3) 口腔粘膜の疾患 4) 口腔領域ののう胞 5) 口腔領域の腫瘍 6) 口腔領域の悪性腫瘍 7) 顎骨の外傷 8) 先天異常および発育異常 9) 顎関節の疾患 10) 唾液腺の疾患 11) 神経の疾患 						
評価方法	本科目の単元である消化機能障害①②の試験結果を反映する。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [15] 歯・口腔 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅲ (脳・神経機能の障害)		講師	渡邊 一良・小河 秀郎			
開講年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (20)	授業 形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・脳、神経機能障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論ー重要な問題点と考え方 2. 神経疾患と医療の流れ 3. 脳・神経系の形態と機能 4. 神経症状 5. 診断と治療 6. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳卒中 2) 筋萎縮性側索硬化症 3) 多発性硬化症 4) 進行性筋ジストロフィー 5) 重症筋無力症 6) アルツハイマー病 7) パーキンソン氏病 8) その他 7. 手術適応となる主な疾患とその診療 8. 画像診断によるグループワーク (演習) 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、脳・神経機能障害の単元60点、造血・免疫機能障害の単元40点で構成する。それぞれの単元で60% (脳・神経は36点、造血・免疫は24点) 以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅲ (造血・免疫機能の障害)			講師	武内 美紀		
開講年次	2年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (8)	授業形態	講義・演習
科目概要	<p>・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。</p> <p>・造血、免疫機能に障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液、造血器および免疫機能に関する臓器の形態と機能 2. 症状と病態整理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 貧血 2) 血友病 3) 血小板減少症 4) 白血病 5) 悪性リンパ腫 6) AIDS 7) その他 6. 化学療法による生体侵襲と患者理解（演習） 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、脳・神経機能障害の単元60点、造血・免疫機能障害の単元40点で構成する。それぞれの単元で60%（脳・神経は36点、造血・免疫は24点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅳ (内部環境調節機能の障害)			講師	大村 寧		
開講年次	2年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (8)	授業形態	講義・演習
科目概要	<p>・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。</p> <p>・内部環境調節機能に障害をおこす内分泌系臓器、器官の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌系臓器の形態と機能 2. 症状と病態整理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内分泌疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・クッシング症候群 ・尿崩症 ・成長ホルモン産生腫瘍 ・バセドウ病 ・甲状腺腫瘍 ・甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症 ・副甲状腺疾患 2) 代謝疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病 ・脂質異常症 ・肥満症とメタボリックシンドローム ・尿酸代謝異常 6. 血糖測定体験（演習） 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、内部環境調節機能障害30・体液調節障害30点、感染・アレルギー障害40点で構成する。それぞれの単元で60%（内部環境は18点、体液調節は18点、感染・アレルギーは24点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅳ (体液の調節障害)			講師	桑形 尚吾 ・ 金 哲 将		
開講年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (8)	授業 形態	講義・演習
科目概要	<p>・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。</p> <p>・体液の調節機能の障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患と治療について学ぶ。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・泌尿器系の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 治療 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 腎不全と慢性腎臓病 <ul style="list-style-type: none"> ・透析療法 ・腎移植 2) 原発性糸球体腎炎 <ul style="list-style-type: none"> ・糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群 3) 全身性疾患による腎障害 <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病性腎症 ・アミロイド腎症 ・多発性骨髄腫 4) 尿路の障害 <ul style="list-style-type: none"> ・水腎症 ・神経因性膀胱 ・尿失禁 5) 結石 <ul style="list-style-type: none"> ・腎結石、尿管結石、膀胱結石 6) 腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ・腎がん、膀胱がん、前立腺がん 6. 尿検査体験（演習） 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、内部環境調節機能障害30点、体液調節障害30点、感染・アレルギー障害40点で構成する。それぞれの単元で60%（内部環境は18点、体液調節は18点、感染・アレルギーは24点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅳ (感染・アレルギー系の障害)			講師	渋谷和之・南部卓三		
開講年次	2年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (12)	授業形態	講義・演習
科目概要	<p>・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。</p> <p>・感染、アレルギー系の障害をおこす臓器、器官の病態生理及び疾患と治療について学ぶ。</p>						
授業計画	<p>I 感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症とは 2. 感染症の症状と病態生理 3. 感染症の診断と検査 4. 感染症の主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 菌血症 2) 吸器感染症 3) 性感染症 4) 消化管感染症 5) 輸入感染症 6) その他 6. 感染症に関するグループワーク (演習) <p>II アレルギー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫のしくみ 2. アレルギーの症状と病態生理 3. アレルギーの診断と検査 4. アレルギーの主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 気管支喘息 2) アレルギー性鼻炎 3) アトピー性皮膚炎 4) その他 <p>III 膠原病</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己免疫とは 2. 膠原病の症状と病態生理 3. 膠原病の診断と検査 4. 膠原病の主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス 3) ベーチェット病 4) その他 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、内部環境調節機能障害30点、体液調節障害30点、感染・アレルギー障害40点で構成する。それぞれの単元で60% (内部環境は18点、体液調節は18点、感染・アレルギーは24点) 以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論V (感覚機能の障害：視覚)			講師	山名正昭		
開講年次	2年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (6)	授業 形態	講義
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・視覚障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 眼球および付属器の形態と機能 2. 症状と病態整理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 屈折の異常 2) 調節の異常 3) 色覚の異常 5) 眼位・眼球運動の異常 <ol style="list-style-type: none"> ①斜視 6) 眼瞼の疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①麦粒腫 ②霰粒腫 7) 結膜の疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①細菌性結膜炎 ②流行性角結膜炎 8) 涙器の疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①鼻涙管閉塞 9) 角膜の疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①角膜びらん ②単純ヘルペス性角膜炎 10) ぶどう膜の疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①ベーチェット病 11) 眼底（網膜・脈絡膜）の疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①糖尿病網膜症 ②網膜剥離 12) 水晶体の疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①老人性白内障 13) 硝子体の疾患 14) 緑内障 15) 外傷 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①～⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論V (感覚機能の障害:聴覚・嗅覚)			講師	入川直矢		
開講年次	2年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (6)	授業 形態	講義
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・嗅覚、聴覚障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 外耳疾患 2) 中耳疾患 3) 内耳・後迷路性疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①メニエール病 ②老人性難聴 ③突発性難聴 4) 外鼻疾患 5) 鼻腔疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①鼻中隔彎曲症 ②鼻出血 6) 副鼻腔疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①急性副鼻腔炎 ②慢性副鼻腔炎 ③上顎がん 7) 咽頭疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①急性扁桃炎 ②扁桃肥大症 ③下咽頭がん ④上咽頭がん 8) 唾液腺疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①流行性耳下腺炎 ②シェーグレン症候群 9) 喉頭疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①仮性ク룹 ②喉頭がん 10) 気道・食道の疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①気道異物 ②気管切開 11) 頸部疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①甲状腺疾患 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①～⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論V (感覚機能の障害：皮膚)			講師	山本文平		
開講年次	2年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (6)	授業形態	講義
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・皮膚感覚（触覚）障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 接触性皮膚炎 2) 蕁麻疹 3) 紅斑症 4) 水疱症 5) 角化症 6) 熱傷 7) 褥瘡 8) 腫瘍 9) 白癬症 10) 帯状疱疹 11) 疥癬 12) 膠原病 13) その他 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①～⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [12] 皮膚」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅴ（生命の連続性をつくり出す機能の障害：女性生殖器の異常）			講師	小林 昌 ・ 森 毅		
開講年次	2年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (6)	授業形態	講義・演習
科目概要	<p>・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。</p> <p>・生命の連続性をつくり出す女性生殖機能の病態生理及び疾患と治療について学ぶ。</p>						
授業計画	<p>1. 女性生殖器の形態と機能</p> <p> 1) 女性とホルモン</p> <p> 2) 月経の生理</p> <p>2. 症状と病態生理</p> <p>3. 診断と検査</p> <p>4. 主な疾患とその診療</p> <p> 1) 月経異常</p> <p> 2) 子宮内膜症</p> <p> 3) 子宮筋腫と子宮癌</p> <p> 4) 卵巣腫瘍と卵巣癌</p> <p><乳房></p> <p>1. 乳腺疾患</p> <p> 1) 良性腫瘍</p> <p> (1) 乳腺炎</p> <p> (2) 乳腺症</p> <p> (3) 乳腺のう胞</p> <p> (4) 乳腺良性腫瘍</p> <p> 2) 乳癌</p> <p> 3) 検査・治療法</p>						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①～⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論Ⅴ（生命の連続性をつくり出す機能の障害：男性生殖器の異常）			講師	金 哲 將		
開講年次	2年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間 (6)	授業形態	講義
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。 ・生命の連続性をつくり出す男性生殖機能の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男性生殖器の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 勃起障害 2) 射精障害 3) 無精子症 4) 陰嚢水腫 5) その他 						
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①視覚の単元20点、②聴覚の単元20点、③皮膚の単元20点、④女性生殖20点、⑤男性生殖20点で構成する。各単元60%（①～⑤それぞれが12点）以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病態治療論VI (運動機能の障害)			講師	伊藤 隆 司		
開講年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	<p>・人間を生活者として捉え、健康障害の回復に向けて生活を調整するために、生存、生活機能別疾病の特性について理解する。</p> <p>・運動機能障害の病態生理及び疾患とその治療について学ぶ。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋、骨格器系の形態と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断と検査 4. 主な治療法 5. 主な疾患とその診療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨折 2) 脱臼 3) 捻挫および打撲 4) 神経の損傷 <ol style="list-style-type: none"> ①脊髄損傷 ②末梢神経損傷 5) 筋・腱・靭帯などの損傷 <ol style="list-style-type: none"> ①アキレス腱断裂 ②膝内障 6) 先天性疾患 7) 骨・関節の炎症性疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①骨髄炎 ②化膿性関節炎 ③変形性関節炎 (OA) ④関節リウマチ (RA) ⑤痛風 8) 骨腫瘍および軟部腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> ①良性骨腫瘍 ②悪性骨腫瘍 9) 代謝性骨疾患 10) 筋および腱の疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①ばね指 ②ガングリオン 11) 上肢および上肢帯の疾患 12) 脊椎の疾患 13) 下肢および下肢帯の疾患 						
評価方法	筆記試験 60%(60点)以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器」 医学書院						
参考書							

授業科目	病気とくすり			講師	天ヶ瀬 紀久子 ・ 岡部 進 ・ 竹内 孝治 ・ 奈邊 健		
開講年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目概要	薬物療法の基礎となる薬の特徴と作用機序、疾患別に用いられる薬の人体の影響について学ぶ。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学総論 2. 薬剤学総論 3. 抗感染症薬 4. 悪性腫瘍治療薬 5. 免疫治療薬 6. 抗アレルギー、抗炎症薬 7. 末梢神経作用薬 8. 中枢神経作用薬 9. 心臓・血管系に作用する薬物 10. 呼吸器系に作用する薬物 11. 消化器系に作用する薬物 12. ビタミンとホルモン 13. 漢方薬 その他 						
評価方法	筆記試験 60%(60点)以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 薬理学」医学書院						
参考書							

授業科目	医療と倫理			講師	富永 芳徳		
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業形態	講義・演習
科目概要	人間として、また医療者として、人間の生命と尊厳について学ぶ。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 人と人との間 2) 変わらないものと変わりゆくもの 3) 心とこころ 2. 生きるということ <ol style="list-style-type: none"> 1) 産まれる・生きる・死ぬ 2) 生命と生活 3) 病むということ 3. 愛するということ <ol style="list-style-type: none"> 1) 共に生きる 4. 生命倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医の倫理と生命倫理 2) 健康と病気 3) ケアとQOL 4) ‘生きる’と‘生かされる’ 5. 現代社会における生命の問題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の権利と自己決定 2) 病名告知（ディベート） 3) ターミナルケア・終末医療 4) 安楽死・自然死・尊厳死 5) 生殖医療 6) 脳死と臓器移植 7) 生命の問題についてのグループワーク 6. 医療従事者の職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故・医療過誤 						
評価方法	筆記試験 60%(60点)以上を合格とする。						
教科書	看護学生のための医療倫理 丸善出版						
参考書							

授業科目	健康と生活環境			講師	喜多義邦		
開講年次	1年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	生活者の健康を保持・増進するため、健康についての考え方、健康問題の現状、健康政策および施策について学ぶ。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学概論 2. 健康日本21とこれからの保健行政 3. 生活習慣病の概念と予防（高血圧・高脂血症） 4. 生活習慣病の概念と予防（耐糖能異常・喫煙） 5. 国民衛生の主要指標の動向（1） 6. 国民衛生の主要指標の動向（2） 7. 保健・医療に関する行政の動向（1） 8. 保健・医療に関する行政の動向（2） 9. 老人福祉保健の動向と介護保険制度（1） 10. 老人福祉保健の動向と介護保険制度（2） 11. 生活環境と環境保全（1）（グループワーク） ・酸性雨、地球温暖化、オゾン層破壊 12. 生活環境と環境保全（2）（グループワーク） ・大気、水、食品、廃棄物、住環境 13. 労働衛生・学校保健 14. 疫学的研究法のまとめ 						
評価方法	筆記試験 60%(60点)以上を合格とする。						
教科書	松本秀明著よくわかる公衆衛生学 金原出版 厚生指針 国民衛生の動向 2013/2014年 厚生統計協会						
参考書							

授業科目	社会福祉と社会保障			講師	保科和久		
開講年次	2年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 45時間	授業形態	講義・演習
科目概要	社会福祉・社会保険を中心とするわが国の社会保障制度について知り、人間がよりよく生きるための社会資源の活用方法を学ぶ。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会福祉の歴史について 3. 日本国憲法と社会福祉との関係 4. 生活保護の原理・原則 5. 生活保護の理想と現実 6. 児童虐待問題について 7. 医療従事者の虐待問題(演習) 8. 障害者問題って何？ 9. 障害各法と手帳制度① 10. 障害各法と手帳制度② 11. 発達障害① 12. 発達障害②(演習) 13. 措置から自立支援法へ 14. 自立支援法から総合支援法へ 15. 少子・高齢社会とは？ 16. 老人福祉と老人医療① 17. 老人福祉と老人医療② 18. 介護保険制度① 19. 介護保険制度② 20. 障害者福祉制度と看護(演習) 21. 高齢者福祉制度と看護(演習) 22. 全体のまとめ 						
評価方法	筆記試験 60%(60点)以上を合格とする。						
教科書	山縣文治・岡田忠克編 『よくわかる社会福祉』 ミネルヴァ書房(最新版)						
参考書							

授業科目	法と看護 I			講師			
開講年次	2年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業形態	講義・演習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・医療のあり方を規定する法律についての知識を深める。 ・医療に関わる人の身分及び業務に関する法令を理解する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生と衛生法規 2. 医事法規と薬事法規 3. 予防衛生法規と保健衛生法規（前） 4. 保健衛生法規（後）と環境衛生法規 5. 関連法規 6. 医療過誤 <p>*筆記試験（45分）</p>						
評価方法	筆記試験 60%(60点)以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令」 医学書院						
参考書							

授業科目	法と看護Ⅱ			講師	窪田 好恵																																						
開講年次	2年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業形態	講義・演習																																				
科目概要	看護師の法的位置づけと責任を理解し、事例や判例から看護師の注意義務および責任について学ぶ。																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>月/日</th> <th>内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>授業ガイダンス 保健師助産師看護師法について</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>看護行為とは 看護師の医療行為とその限界 看護業務の罰則規定と判例</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>訪問看護 介護福祉士の医療行為との関係 認定看護師 専門看護師 特定行為に係る看護師の研修制度について</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>医療法 個人情報保護法と看護 看護サービス管理と法</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td>看護業務と医療安全 罰則規定と判例 リスクマネジメント</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td>グループワーク発表 看護場面における安全と法</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>患者の権利擁護と看護倫理 インフォームドコンセント</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>単位認定試験</td> <td>試験</td> </tr> </tbody> </table>							回	月/日	内容	方法	1		授業ガイダンス 保健師助産師看護師法について	講義・演習	2		看護行為とは 看護師の医療行為とその限界 看護業務の罰則規定と判例	〃	3		訪問看護 介護福祉士の医療行為との関係 認定看護師 専門看護師 特定行為に係る看護師の研修制度について	〃	4		医療法 個人情報保護法と看護 看護サービス管理と法	〃	5		看護業務と医療安全 罰則規定と判例 リスクマネジメント	〃	6		グループワーク発表 看護場面における安全と法	〃	7		患者の権利擁護と看護倫理 インフォームドコンセント	〃			単位認定試験	試験
	回	月/日	内容	方法																																							
	1		授業ガイダンス 保健師助産師看護師法について	講義・演習																																							
	2		看護行為とは 看護師の医療行為とその限界 看護業務の罰則規定と判例	〃																																							
	3		訪問看護 介護福祉士の医療行為との関係 認定看護師 専門看護師 特定行為に係る看護師の研修制度について	〃																																							
	4		医療法 個人情報保護法と看護 看護サービス管理と法	〃																																							
	5		看護業務と医療安全 罰則規定と判例 リスクマネジメント	〃																																							
	6		グループワーク発表 看護場面における安全と法	〃																																							
	7		患者の権利擁護と看護倫理 インフォームドコンセント	〃																																							
		単位認定試験	試験																																								
	授業外学習として、法と看護Ⅰを復習し関連させて学習する。																																										
評価方法	筆記試験 60%(60点)以上を合格とする。 毎回授業後にレスポンスカードを記入し、提出をもって出席とする。 レスポンスカードの内容によって、単位認定試験に加点する。																																										
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法規』医学書院 『私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法』日本看護協会出版会																																										
参考書																																											

【1年次学習科目】

専門分野 I

基礎看護学

授業科目	基礎看護学特論 I			担当 教員	林 カ オ リ		
開講 年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1 単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目 概要	看護の基本となる概念、理論を学び、人間の理解とライフサイクルにおける健康への理解を深め、看護の位置づけと役割の重要性を認識する。						
授業 計画	I. 看護への導入			看護の様々な概念と定義、看護の実践とはどのようなものかを学ぶ。			
	II. 健康と病気における安寧の促進			健康の概念とさまざまな健康観、健康増進に対する関わりを学ぶ。			
	III. 看護の対象とその理解			人間の特性や統合体としての捉え方、個人、家族、コミュニティ、地域社会の観点から看護の役割を学ぶ。			
	IV. 看護実践のための理論的根拠			看護の歴史と関連づけながら、主な看護理論家とその理論を学ぶ。			
	V. 保健・医療・福祉システム			保健・医療・福祉の概念と基盤となる法律、サービス提供の場を知り、保健・医療・福祉チームにおける看護者の役割を学ぶ。			
	VI. 看護における法的側面			看護実践における法的基盤と看護と法の関わりについて学ぶ。			
	VII. 看護の展開と継続性			看護におけるチームアプローチと継続看護について学ぶ。			
	VIII. 看護ケアのマネジメント			看護のマネジメントとは何か、その内容と医療安全の意味を学ぶ。			
	IX. 看護における倫理と価値			看護倫理に関する基礎的知識と倫理的看護実践を行うために必要な考え方を学ぶ。			
評価 方法	筆記試験 100点満点（内、課題10点）の試験を行い60点以上を合格とする。						
教科書	「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①」 「看護学概論」 MCメディカ出版 F・ナイチンゲール著 「看護覚え書き」 現代社						
参考書	授業で適時紹介する。						

授業科目	基礎看護学特論Ⅱ			担当 教員	中尾 裕子		
開講 年次	3年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義 ケーススタディ
科目 概要	<ul style="list-style-type: none"> 看護における研究の重要性を理解し、看護研究に必要な基礎的知識、態度を身につける。 研究の一環としてケース・スタディを行う。 看護倫理に関する基礎的知識を理解し、倫理的思考決定の方向性を学ぶ。 						
	<p>I 研究（10時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護実践における研究の意義 看護研究の目的と分野 看護研究の方法とデータの収集方法 看護研究の進め方 看護研究の現状と方向 看護研究の対象となる人々の権利の保護 学会（学術集会）に参加 <p>II ケース・スタディ（15時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> ケース・スタディについて ケース・スタディの取り組み方 ケース・スタディのまとめ方 ケース・スタディの評価 ケース・スタディ発表（クラス内） <p>III 看護における倫理と価値（4時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護倫理とは 看護倫理の必要性 倫理的課題への対応 			<ul style="list-style-type: none"> 看護実践における研究の意義や目的、分野について講義で学ぶ。 研究のプロセスでは特にテーマの決定をするにあたって、研究の動機、必要性の明確化について学ぶ。 パソコンによる文献検索を行い、文献の活用法、読み方を学習する。 研究計画の立て方を学習し、研究方法の妥当性、信憑性について学ぶ。 論文作成の決まりごとを学ぶ。 ケース・スタディのまとめ方を学ぶ。 複数のケース・スタディを文献検討し、論文としてのまとめ方や、論理の一貫性について学ぶ。 各自のテーマについて吟味し、研究計画を立て、研究の妥当性の確認をする。さらに各自のケースをまとめるにあたっては、担当教員の指導を受ける。 			
評価 方法	ケーススタディの提出とその内容。（評価表に基づく）50% 筆記試験 50% 本科目の評価は、ケーススタディ、筆記試験何れも30点以上を合格とする。						
教科書	川村佐和子 他著 「ナースンググラフィカ19 基礎看護学 看護研究」 MCメディカ出版 松本孚 「わかりやすいケーススタディの進め方」 照林社						
参考書							

【1年次学習科目】

専門分野 I

基礎看護学

授業科目	基礎看護学援助論 I			担当 教員	中尾 裕子		
開講 年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業 形態	講義・演習
科目 概要	看護活動の基本となる看護技術、安全・安楽の概念を学ぶ。 コミュニケーションの概念・方法を学び、コミュニケーション技術を養う。						
授業 計画	<p>1. 看護技術の概念（4時間）</p> <p>1) 看護技術とは</p> <p>2) 看護技術の専門性と展開</p> <p>3) 看護技術の質の保証</p> <p>4) 看護技術における倫理</p> <p>2. 安全・安楽（4時間）</p> <p>1) 安全とは</p> <p>2) 安楽とは</p> <p>3. コミュニケーション(6時間+45分間)</p> <p>1) コミュニケーションとは</p> <p>2) コミュニケーションの技術 ・プロセスレコード</p> <p>3) 看護場面のコミュニケーション</p>			<p>・看護学における看護技術の意義を理解し、実践のための学習方法を学ぶ。</p> <p>・学内実習方法と実習室の使用方法について説明を受ける。</p> <p>・看護における安全・安楽の概念・重要性を学ぶ。</p> <p>・看護技術の習得に向けて、安全・安楽な視点をもって看護活動を行う姿勢を養う。</p> <p>・コミュニケーションの基礎的知識を理解し、看護場面で患者との信頼関係を築くための技術を学ぶ。</p> <p>・プロセスレコードなどコミュニケーションの理解を深めるための方法を学ぶ。</p>			
評価 方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①看護技術の概念と安全安楽の単元40点、②コミュニケーションの単元60点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①は24点、②は36点）以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
参考書等							

授業科目	基礎看護学援助論Ⅱ			担当 教員	神 山 恵 子		
開講 年次	1年次 前・後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・看護における観察・記録・報告の重要性や方法を学ぶ。 ・フィジカルアセスメントの意義を学び、対象の状態を判断する方法を学ぶ。 ・バイタルサインの重要性・測定方法を学ぶ。 						
授業 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察・記録・報告 (6時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 観察の目的・方法 2) 看護記録の種類・記載方法 3) 報告の目的・方法 2. フィジカルアセスメント(23時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) フィジカルアセスメントの重要性と意義 2) フィジカルアセスメントの基本技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 問診 (2) 視診 (3) 触診 (4) 打診 (5) 聴診 3) 一般状態のアセスメントと各部位のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) バイタルサイン測定 (2) 身体計測 (3) 消化器系のアセスメント (4) 呼吸器系のアセスメント (5) 循環器系のアセスメント ・心音を含む (6) 筋・骨格器系のアセスメント (7) 神経系のアセスメント 			<ul style="list-style-type: none"> ・対象の健康状態を的確に判断するための観察技術を学ぶ。 ・看護記録の種類と記載方法を学び、看護記録の重要性を考える。 ・看護における報告の重要性・方法を学ぶ。 ・フィジカルアセスメントの重要性とその意義を学ぶ。 ・フィジカルアセスメントの方法を理解し、対象者に実施できるよう援助技術を学ぶ。 ・バイタルサイン測定の技術チェックを行う。 ・履修規程第4条2項に基づく認定資格として、バイタルサイン測定技術は、一定水準に達することとする。 			
評価 方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①観察記録報告の単元20点、②フィジカルアセスメントの単元80点、で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60% (①12点、②48点) 以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 I」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II」 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる 基礎看護技術 メディックメディア						
参考書	その他、授業で適時紹介する。						

授業科目	基礎看護学援助論Ⅲ			担当 教員	神 山 恵 子		
開講 年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1 単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目 概要	<p>・活動と休息の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。</p> <p>・清潔と衣生活の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。</p>						
授業 計画	<p>1. 活動と休息 (12時間)</p> <p>1) 健康生活と活動・運動の意義</p> <p>2) 安楽な姿勢の保持と体位の変換</p> <p>3) 移動・移送の援助技術</p> <p>4) 休息と睡眠の意義と援助</p> <p>5) 体位と褥瘡の関係</p> <p>2. 清潔と衣生活 (17時間)</p> <p>1) 健康生活と清潔とは</p> <p>2) 健康障害のある人の清潔の必要性</p> <p>3) 清潔を保つ援助</p> <p>(1) 口腔ケア</p> <p>(2) 全身清拭</p> <p>(3) 部分清拭</p> <p> i 陰部洗浄</p> <p> ii 手足浴</p> <p>(4) 洗髪</p> <p>4) 衣服生活の意義</p> <p>5) 衣類の選択と着脱援助</p>			<p>健康生活における活動と休息の意義を理解し、活動と休息の意義を理解し、活動と休息のリズムをバランスよく保てるような援助技術を学ぶ。</p> <p>ボディーメカニクスの基本原理を理解し、安楽な援助に必要な効率的な方法を学ぶ。体圧が及ぼす影響について学び褥瘡予防に必要な援助方法を学ぶ。</p> <p>体位変換と移送の技術チェックを行う。</p> <p>人間にとっての清潔ニーズの意義について考え、基本的な清潔の援助方法を学ぶ。</p> <p>衣生活の意義を理解し快適な衣生活の援助方法を学ぶ。</p> <p>全身清拭と寝衣交換の技術チェックを行う。</p> <p>履修規程第4条2項に基づく認定資格として、体位変換、移送、全身清拭、洗髪、寝衣交換技術は一定水準に達することとする。</p>			
評価 方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①活動休息の単元40点、②清潔と衣生活の単元60点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①は24点、②は36点）以上で単位を認定する。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学援助論Ⅳ			担当教員	中尾 裕子		
開講年次	1年次前・後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習 学内実習
科目概要	あらゆる健康レベルにある対象の日常生活（環境・食事・排泄）の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。						
授業計画	<p>1. 環境の調整（10時間）</p> <p>1）快適な生活と環境</p> <p>2）療養者の生活と環境</p> <p>3）病床の作り方と整備</p> <p>2. 食事（6時間）</p> <p>1）人間にとって食事とは</p> <p>2）健康な生活と食事</p> <p>3）食事援助に必要な基礎知識</p> <p>4）病人食の種類と特殊性</p> <p>5）健康障害時の食事援助</p> <p>（1）臥床患者の食事介助</p> <p>3. 排泄（13時間）</p> <p>1）人間にとっての排泄とは</p> <p>2）排泄援助に必要な基礎知識</p> <p>3）排泄に関する観察と判断</p> <p>4）排泄の基本的援助</p> <p>（1）尿器の与え方</p> <p>（2）便器の与え方</p> <p>5）排泄障害のある人の援助</p> <p>（1）浣腸</p> <p>（2）導尿</p> <p>（3）摘便</p>			<p>健康的で快適な生活の場と環境について理解し、対象が安心して療養生活ができる環境について考え、対象に必要な生活環境を調整するための援助技術を学ぶ。</p> <p>リネン交換の技術チェックを行う。</p> <p>健康維持のための食と食生活の関連性について理解し、対象の食事・栄養状態のアセスメントの方法と援助技術を学ぶ。</p> <p>人間の生命活動と排泄の重要性を人体の構造と機能から考え、対象のニードやプライバシーを配慮した援助の方法を学ぶ。</p> <p>排泄が障害された時の処置としての浣腸と導尿の基本的知識を理解し対象個々の目的を達成するための技術を学ぶ。</p> <p>履修規程第4条2項に基づく認定資格として、リネン交換技術は一定水準に達することとする。</p>			
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①環境の調整・②食事各単元30点を配点し ③排泄の単元は40点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①と②各18点、③24点）以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学援助論 V			担当 教員	林 カオリ		
開講 年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習・ 学内実習
科目 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の意義を理解し、原理・原則に沿った基本的な技術を習得する。 ・検査の意義及び看護師の役割を理解し、基本的な技術を習得する。 						
授業 計画	<p>1. 感染予防（14時間）</p> <p>1) 感染予防とは</p> <p>2) 感染予防の方法</p> <p>(1) スタンダードプリコーション</p> <p>(2) 手洗い</p> <p>(3) ガウンテクニック</p> <p>3) 院内感染とその予防</p> <p>4) 清潔操作の実際</p> <p>(1) 滅菌手袋の付け外し</p> <p>(2) 無菌操作</p> <p>5) 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>6) 針刺し事故の防止策</p> <p>2. 検査に伴う看護（15時間）</p> <p>1) 診療場面における看護の役割</p> <p>2) 検査の種類と介助方法</p> <p>3) 静脈血採血方法の実際</p> <p>4) 検査時の援助の実際</p>			<p>安全を守るために必要な感染予防の意義を理解し、感染予防対策の方法を学ぶ。</p> <p>検査の必要性と検査場面の看護の役割を理解する。</p> <p>検査時の対象への援助と検体の正しい取扱い方法を学ぶ。</p>			
評価方 法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①感染予防の単元40点、②検査に伴う看護の単元60点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①24点②36点）以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学援助論VI			担当 教員	林 カオリ		
開講 年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目 概要	薬物療法における基礎知識と看護の役割を理解し、基本的な与薬の援助技術を習得する。						
授業 計画	<p>1. 与薬とは</p> <p>1) 薬物療法の目的</p> <p>2) 薬物の作用・排泄の機序</p> <p>3) 与薬の原則と注意事項</p> <p>4) 与薬における看護の役割</p> <p>2. 与薬方法</p> <p>1) 経口与薬</p> <p>2) 直腸内与薬</p> <p>3) 外用薬（塗布・塗擦、点眼、 点入、点鼻、点耳、吸入）</p> <p>4) 注射法</p> <p>(1) 注射器・注射針・アンプル の構造と取り扱い</p> <p>(2) 各注射法（皮下・皮内・ 筋肉内注射・静脈内注射・ 点滴静脈内注射）の実際</p> <p>(3) 筋肉内注射法の実際</p> <p>3. 輸血</p> <p>1) 輸血の目的・適応</p> <p>2) 輸血の種類・方法</p>			<p>・人間にとっての薬物の影響について考え、与薬に必要な知識を理解する。また、薬物療法の援助の重要性を理解し、必要な基礎的知識を学ぶ。</p> <p>・シミュレーター等を用い、様々な与薬方法の基礎的知識と方法を学ぶ。</p> <p>・輸血の目的・適応・種類を知り、取扱い方法・実施方法を理解する。</p> <p>履修規程第4条2項に基づく認定資格としては、筋肉内注射技術は一定水準に達することとする。</p>			
評価 方法	筆記試験 100点配点の試験を行い60点以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学 援助論Ⅶ			担当 教員	神山 恵子		
開講 年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の特性・取扱いを理解し、その使用方法を学ぶ。 ・呼吸・循環を整えるための基本的な援助技術を習得する。 ・体温を調節する技術の基本的な方法を学ぶ。 ・救急法の基本的な援助技術を習得する。 						
授業 計画	1. ME機器の原理と実際(8時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) ME機器とは 2) ME機器を使用する為の基礎知識 3) ME機器取り扱い上の留意事項 4) ME機器使用時の看護 5) ME機器の種類と使用法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 治療用ME機器 (2) 検査用ME機器 			<ul style="list-style-type: none"> ・医療用機器の原理を知り、安全で安楽な管理が出来る方法を学ぶ。 ・学内実習では治療用・検査用 ME 機器の取り扱い方を実際に行い理解を深める。 			
	2. 吸入・吸引(6時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 吸入とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 酸素吸入の方法 (2) 噴霧吸入の方法 2) 吸引とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 吸引の種類と方法 <ul style="list-style-type: none"> 口腔・鼻腔内吸引 気管内吸引 			<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸は生命に直結することを踏まえた上で、この单元では呼吸を維持するための、基本的で正確な援助技術を学ぶ。 			
	3. 罨法(4時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 温罨法とは 2) 冷罨法とは 			<ul style="list-style-type: none"> ・罨法の種類と効用を理解し、基本的な方法を学ぶ。 			
	4. 救急法と看護(11時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急法の意義と適応 2) 対象者の救急時のアセスメント 3) 救急状態にある対象者と家族への援助 4) 救急の基本技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 心肺蘇生法 (2) 止血法 (3) 包帯法 (4) 異物の除去 			<ul style="list-style-type: none"> ・救急時の対応は対象の生命に影響するため身体的、心理的变化を理解し、対応できる基礎的知識、技術を学ぶ。 			
評価 方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①ME機器、吸入・吸引、罨法の単元60点、②救急法看護の単元40点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60% (①は36点、②は24点) 以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学 援助論Ⅷ			担当教員	中尾 裕子		
開講年次	1年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	対象の情報分析から問題状況を抽出し、問題解決に向かう看護を展開するための方法を習得する。						
授業計画	<p>I 看護過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題の発生と対処行動 2. 看護過程とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 概念と歴史 2) 問題解決過程との比較 3) 看護理論との関連 4) クリティカルシンキング・科学的思考 3. 倫理観と価値観 <p>II 情報収集</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報源 2. 情報収集方法 3. 目的をもった情報収集 4. 情報収集の枠組みの理解 (ゴードンの機能的健康パターン) <p>III 情報整理(クラスタリング)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報整理 2. 主観的・客観的情報の使い分け 3. 分析、解釈、判断 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分析の視点 2) 情報の意味 3) 推論 <p>IV 問題状況の抽出と統合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護診断との関連 (診断名、診断指標、関連因子) <p>V 解決策の立案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護上の問題と目標 2. 期待される結果 3. 具体策の立案 4. 評価 5. 1～4の一貫性・関連性 <p>VI 具体策の立案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 具体策 2. SOAP記録 <p>VII 事例展開</p>			<p>自ら考えて看護を行う看護師になるために、思考過程としての看護過程を学ぶ。(講義・演習)</p> <p>看護過程は患者の身体・精神・スピリチュアリティに対して全人的に焦点をあてている。健康問題が患者の安寧や自立にもたらす影響を理解し、健康の保持・増進・予防につながる看護介入が思考できる力を養う。(講義・演習)</p> <p>事例展開を通して、対象理解とクリティークする力を養う。(演習)</p>			
評価方法	筆記試験 100点配点の試験を行い60点以上で単位を認定する。						
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. リンダ・J・カルペニート 看護診断ハンドブック 医学書院 2. 新道幸恵著「ポケット版基準看護計画」 照林社 3. 高木永子他著「看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント」 学研 4. 高久史磨 治療薬マニュアル2019 医学書院 						
参考書	<p>エレインNマリー著 林正健二・浅見一羊他訳 「人体の構造と機能」 医学書院</p> <p>江口正信他著 「検査値早わかりガイド」 サイオ出版</p>						

授業科目	基礎看護学特論 I			担当 教員	林 カ オ リ		
開講 年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1 単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目 概要	看護の基本となる概念、理論を学び、人間の理解とライフサイクルにおける健康への理解を深め、看護の位置づけと役割の重要性を認識する。						
授業 計画	I. 看護への導入			看護の様々な概念と定義、看護の実践とはどのようなものかを学ぶ。			
	II. 健康と病気における安寧の促進			健康の概念とさまざまな健康観、健康増進に対する関わりを学ぶ。			
	III. 看護の対象とその理解			人間の特性や統合体としての捉え方、個人、家族、コミュニティ、地域社会の観点から看護の役割を学ぶ。			
	IV. 看護実践のための理論的根拠			看護の歴史と関連づけながら、主な看護理論家とその理論を学ぶ。			
	V. 保健・医療・福祉システム			保健・医療・福祉の概念と基盤となる法律、サービス提供の場を知り、保健・医療・福祉チームにおける看護者の役割を学ぶ。			
	VI. 看護における法的側面			看護実践における法的基盤と看護と法の関わりについて学ぶ。			
	VII. 看護の展開と継続性			看護におけるチームアプローチと継続看護について学ぶ。			
	VIII. 看護ケアのマネジメント			看護のマネジメントとは何か、その内容と医療安全の意味を学ぶ。			
	IX. 看護における倫理と価値			看護倫理に関する基礎的知識と倫理的看護実践を行うために必要な考え方を学ぶ。			
評価 方法	筆記試験 100点満点（内、課題10点）の試験を行い60点以上を合格とする。						
教科書	「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①」 「看護学概論」 MCメディアカ出版 F・ナイチンゲール著 「看護覚え書き」 現代社						
参考書	授業で適時紹介する。						

授業科目	基礎看護学特論Ⅱ			担当 教員	中尾 裕子		
開講 年次	3年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義 ケーススタディ
科目 概要	<ul style="list-style-type: none"> 看護における研究の重要性を理解し、看護研究に必要な基礎的知識、態度を身につける。 研究の一環としてケース・スタディを行う。 看護倫理に関する基礎的知識を理解し、倫理的思考決定の方向性を学ぶ。 						
	<p>I 研究（10時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護実践における研究の意義 看護研究の目的と分野 看護研究の方法とデータの収集方法 看護研究の進め方 看護研究の現状と方向 看護研究の対象となる人々の権利の保護 学会（学術集会）に参加 <p>II ケース・スタディ（15時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> ケース・スタディについて ケース・スタディの取り組み方 ケース・スタディのまとめ方 ケース・スタディの評価 ケース・スタディ発表（クラス内） <p>III 看護における倫理と価値（4時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護倫理とは 看護倫理の必要性 倫理的課題への対応 			<ul style="list-style-type: none"> 看護実践における研究の意義や目的、分野について講義で学ぶ。 研究のプロセスでは特にテーマの決定をするにあたって、研究の動機、必要性の明確化について学ぶ。 パソコンによる文献検索を行い、文献の活用法、読み方を学習する。 研究計画の立て方を学習し、研究方法の妥当性、信憑性について学ぶ。 論文作成の決まりごとを学ぶ。 ケース・スタディのまとめ方を学ぶ。 複数のケース・スタディを文献検討し、論文としてのまとめ方や、論理の一貫性について学ぶ。 各自のテーマについて吟味し、研究計画を立て、研究の妥当性の確認をする。さらに各自のケースをまとめるにあたっては、担当教員の指導を受ける。 			
評価 方法	ケーススタディの提出とその内容。（評価表に基づく）50% 筆記試験 50% 本科目の評価は、ケーススタディ、筆記試験何れも30点以上を合格とする。						
教科書	川村佐和子 他著 「ナースンググラフィカ19 基礎看護学 看護研究」 MCメディカ出版 松本孚 「わかりやすいケーススタディの進め方」 照林社						
参考書							

【1年次学習科目】

専門分野 I

基礎看護学

授業科目	基礎看護学援助論 I			担当 教員	中尾 裕子		
開講 年次	1年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業 形態	講義・演習
科目 概要	看護活動の基本となる看護技術、安全・安楽の概念を学ぶ。 コミュニケーションの概念・方法を学び、コミュニケーション技術を養う。						
授業 計画	<p>1. 看護技術の概念 (4時間)</p> <p>1) 看護技術とは</p> <p>2) 看護技術の専門性と展開</p> <p>3) 看護技術の質の保証</p> <p>4) 看護技術における倫理</p> <p>2. 安全・安楽 (4時間)</p> <p>1) 安全とは</p> <p>2) 安楽とは</p> <p>3. コミュニケーション(6時間+45分間)</p> <p>1) コミュニケーションとは</p> <p>2) コミュニケーションの技術 ・プロセスレコード</p> <p>3) 看護場面のコミュニケーション</p>			<p>・看護学における看護技術の意義を理解し、実践のための学習方法を学ぶ。</p> <p>・学内実習方法と実習室の使用方法について説明を受ける。</p> <p>・看護における安全・安楽の概念・重要性を学ぶ。</p> <p>・看護技術の習得に向けて、安全・安楽な視点をもって看護活動を行う姿勢を養う。</p> <p>・コミュニケーションの基礎的知識を理解し、看護場面で患者との信頼関係を築くための技術を学ぶ。</p> <p>・プロセスレコードなどコミュニケーションの理解を深めるための方法を学ぶ。</p>			
評価 方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①看護技術の概念と安全安楽の単元40点、②コミュニケーションの単元60点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60% (①は24点、②は36点) 以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
参考書等							

授業科目	基礎看護学援助論Ⅱ			担当 教員	神 山 恵 子		
開講 年次	1年次 前・後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・看護における観察・記録・報告の重要性や方法を学ぶ。 ・フィジカルアセスメントの意義を学び、対象の状態を判断する方法を学ぶ。 ・バイタルサインの重要性・測定方法を学ぶ。 						
授業 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察・記録・報告 (6時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 観察の目的・方法 2) 看護記録の種類・記載方法 3) 報告の目的・方法 2. フィジカルアセスメント(23時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) フィジカルアセスメントの重要性と意義 2) フィジカルアセスメントの基本技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 問診 (2) 視診 (3) 触診 (4) 打診 (5) 聴診 3) 一般状態のアセスメントと各部位のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) バイタルサイン測定 (2) 身体計測 (3) 消化器系のアセスメント (4) 呼吸器系のアセスメント (5) 循環器系のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ・心音を含む (6) 筋・骨格器系のアセスメント (7) 神経系のアセスメント 			<ul style="list-style-type: none"> ・対象の健康状態を的確に判断するための観察技術を学ぶ。 ・看護記録の種類と記載方法を学び、看護記録の重要性を考える。 ・看護における報告の重要性・方法を学ぶ。 ・フィジカルアセスメントの重要性とその意義を学ぶ。 ・フィジカルアセスメントの方法を理解し、対象者に実施できるよう援助技術を学ぶ。 ・バイタルサイン測定の技術チェックを行う。 ・履修規程第4条2項に基づく認定資格として、バイタルサイン測定技術は、一定水準に達することとする。 			
評価 方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①観察記録報告の単元20点、②フィジカルアセスメントの単元80点、で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60% (①12点、②48点) 以上を合格とする。						
教科書	「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 I」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II」 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる 基礎看護技術 メディックメディア						
参考書	その他、授業で適時紹介する。						

授業科目	基礎看護学援助論Ⅲ			担当教員	神山 恵子		
開講年次	1年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習 学内実習
科目概要	<p>・活動と休息の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。</p> <p>・清潔と衣生活の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。</p>						
授業計画	<p>1. 活動と休息 (12時間)</p> <p>1) 健康生活と活動・運動の意義</p> <p>2) 安楽な姿勢の保持と体位の変換</p> <p>3) 移動・移送の援助技術</p> <p>4) 休息と睡眠の意義と援助</p> <p>5) 体位と褥瘡の関係</p> <p>2. 清潔と衣生活 (17時間)</p> <p>1) 健康生活と清潔とは</p> <p>2) 健康障害のある人の清潔の必要性</p> <p>3) 清潔を保つ援助</p> <p>(1) 口腔ケア</p> <p>(2) 全身清拭</p> <p>(3) 部分清拭</p> <p> i 陰部洗浄</p> <p> ii 手足浴</p> <p>(4) 洗髪</p> <p>4) 衣服生活の意義</p> <p>5) 衣類の選択と着脱援助</p>			<p>健康生活における活動と休息の意義を理解し、活動と休息の意義を理解し、活動と休息のリズムをバランスよく保てるような援助技術を学ぶ。</p> <p>ボディーメカニクスの基本原則を理解し、安楽な援助に必要な効率的な方法を学ぶ。体圧が及ぼす影響について学び褥瘡予防に必要な援助方法を学ぶ。</p> <p>体位変換と移送の技術チェックを行う。</p> <p>人間にとっての清潔ニーズの意義について考え、基本的な清潔の援助方法を学ぶ。</p> <p>衣生活の意義を理解し快適な衣生活の援助方法を学ぶ。</p> <p>全身清拭と寝衣交換の技術チェックを行う。</p> <p>履修規程第4条2項に基づく認定資格として、体位変換、移送、全身清拭、洗髪、寝衣交換技術は一定水準に達することとする。</p>			
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①活動休息の単元40点、②清潔と衣生活の単元60点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①は24点、②は36点）以上で単位を認定する。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学援助論Ⅳ			担当教員	中尾 裕子		
開講年次	1年次前・後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習 学内実習
科目概要	あらゆる健康レベルにある対象の日常生活（環境・食事・排泄）の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。						
授業計画	<p>1. 環境の調整（10時間）</p> <p>1) 快適な生活と環境</p> <p>2) 療養者の生活と環境</p> <p>3) 病床の作り方と整備</p> <p>2. 食事（6時間）</p> <p>1) 人間にとって食事とは</p> <p>2) 健康な生活と食事</p> <p>3) 食事援助に必要な基礎知識</p> <p>4) 病人食の種類と特殊性</p> <p>5) 健康障害時の食事援助</p> <p>（1）臥床患者の食事介助</p> <p>3. 排泄（13時間）</p> <p>1) 人間にとっての排泄とは</p> <p>2) 排泄援助に必要な基礎知識</p> <p>3) 排泄に関する観察と判断</p> <p>4) 排泄の基本的援助</p> <p>（1）尿器の与え方</p> <p>（2）便器の与え方</p> <p>5) 排泄障害のある人の援助</p> <p>（1）浣腸</p> <p>（2）導尿</p> <p>（3）摘便</p>			<p>健康的で快適な生活の場と環境について理解し、対象が安心して療養生活ができる環境について考え、対象に必要な生活環境を調整するための援助技術を学ぶ。</p> <p>リネン交換の技術チェックを行う。</p> <p>健康維持のための食と食生活の関連性について理解し、対象の食事・栄養状態のアセスメントの方法と援助技術を学ぶ。</p> <p>人間の生命活動と排泄の重要性を人体の構造と機能から考え、対象のニードやプライバシーを配慮した援助の方法を学ぶ。</p> <p>排泄が障害された時の処置としての浣腸と導尿の基本的知識を理解し対象個々の目的を達成するための技術を学ぶ。</p> <p>履修規程第4条2項に基づく認定資格として、リネン交換技術は一定水準に達することとする。</p>			
評価方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①環境の調整・②食事各単元30点を配点し ③排泄の単元は40点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①と②各18点、③24点）以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学援助論 V			担当 教員	林 カオリ		
開講 年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習・ 学内実習
科目 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の意義を理解し、原理・原則に沿った基本的な技術を習得する。 ・検査の意義及び看護師の役割を理解し、基本的な技術を習得する。 						
授業 計画	<p>1. 感染予防（14時間）</p> <p>1) 感染予防とは</p> <p>2) 感染予防の方法</p> <p>(1) スタンダードプリコーション</p> <p>(2) 手洗い</p> <p>(3) ガウンテクニック</p> <p>3) 院内感染とその予防</p> <p>4) 清潔操作の実際</p> <p>(1) 滅菌手袋の付け外し</p> <p>(2) 無菌操作</p> <p>5) 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>6) 針刺し事故の防止策</p> <p>2. 検査に伴う看護（15時間）</p> <p>1) 診療場面における看護の役割</p> <p>2) 検査の種類と介助方法</p> <p>3) 静脈血採血方法の実際</p> <p>4) 検査時の援助の実際</p>			<p>安全を守るために必要な感染予防の意義を理解し、感染予防対策の方法を学ぶ。</p> <p>検査の必要性と検査場面の看護の役割を理解する。</p> <p>検査時の対象への援助と検体の正しい取扱い方法を学ぶ。</p>			
評価方 法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①感染予防の単元40点、②検査に伴う看護の単元60点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60%（①24点②36点）以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学援助論VI			担当 教員	林 カオリ		
開講 年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目 概要	薬物療法における基礎知識と看護の役割を理解し、基本的な与薬の援助技術を習得する。						
授業 計画	<p>1. 与薬とは</p> <p>1) 薬物療法の目的</p> <p>2) 薬物の作用・排泄の機序</p> <p>3) 与薬の原則と注意事項</p> <p>4) 与薬における看護の役割</p> <p>2. 与薬方法</p> <p>1) 経口与薬</p> <p>2) 直腸内与薬</p> <p>3) 外用薬（塗布・塗擦、点眼、 点入、点鼻、点耳、吸入）</p> <p>4) 注射法</p> <p>(1) 注射器・注射針・アンプル の構造と取り扱い</p> <p>(2) 各注射法（皮下・皮内・ 筋肉内注射・静脈内注射・ 点滴静脈内注射）の実際</p> <p>(3) 筋肉内注射法の実際</p> <p>3. 輸血</p> <p>1) 輸血の目的・適応</p> <p>2) 輸血の種類・方法</p>			<p>・人間にとっての薬物の影響について考え、与薬に必要な知識を理解する。また、薬物療法の援助の重要性を理解し、必要な基礎的知識を学ぶ。</p> <p>・シミュレーター等を用い、様々な与薬方法の基礎的知識と方法を学ぶ。</p> <p>・輸血の目的・適応・種類を知り、取扱い方法・実施方法を理解する。</p> <p>履修規程第4条2項に基づく認定資格としては、筋肉内注射技術は一定水準に達することとする。</p>			
評価 方法	筆記試験 100点配点の試験を行い60点以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学 援助論Ⅶ			担当 教員	神 山 恵 子		
開講 年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習 学内実習
科目 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の特性・取扱いを理解し、その使用方法を学ぶ。 ・呼吸・循環を整えるための基本的な援助技術を習得する。 ・体温を調節する技術の基本的な方法を学ぶ。 ・救急法の基本的な援助技術を習得する。 						
授業 計画	1. ME機器の原理と実際(8時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) ME機器とは 2) ME機器を使用する為の基礎知識 3) ME機器取り扱い上の留意事項 4) ME機器使用時の看護 5) ME機器の種類と使用法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 治療用ME機器 (2) 検査用ME機器 			<ul style="list-style-type: none"> ・医療用機器の原理を知り、安全で安楽な管理が出来る方法を学ぶ。 ・学内実習では治療用・検査用 ME 機器の取り扱い方を実際に行い理解を深める。 			
	2. 吸入・吸引(6時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 吸入とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 酸素吸入の方法 (2) 噴霧吸入の方法 2) 吸引とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 吸引の種類と方法 <ul style="list-style-type: none"> 口腔・鼻腔内吸引 気管内吸引 			<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸は生命に直結することを踏まえた上で、この单元では呼吸を維持するための、基本的で正確な援助技術を学ぶ。 			
	3. 罨法(4時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 温罨法とは 2) 冷罨法とは 			<ul style="list-style-type: none"> ・罨法の種類と効用を理解し、基本的な方法を学ぶ。 			
	4. 救急法と看護(11時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急法の意義と適応 2) 対象者の救急時のアセスメント 3) 救急状態にある対象者と家族への援助 4) 救急の基本技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 心肺蘇生法 (2) 止血法 (3) 包帯法 (4) 異物の除去 			<ul style="list-style-type: none"> ・救急時の対応は対象の生命に影響するため身体的、心理的变化を理解し、対応できる基礎的知識、技術を学ぶ。 			
評価 方法	筆記試験。本科目の筆記試験は、①ME機器、吸入・吸引、罨法の単元60点、②救急法看護の単元40点で構成する。合計60点以上、なおかつ、各単元60% (①は36点、②は24点) 以上を合格とする。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア						
参考書等	授業で適時紹介する						

授業科目	基礎看護学 援助論Ⅷ			担当教員	中尾 裕子		
開講年次	1年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	講義・演習
科目概要	対象の情報分析から問題状況を抽出し、問題解決に向かう看護を展開するための方法を習得する。						
授業計画	<p>I 看護過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題の発生と対処行動 2. 看護過程とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 概念と歴史 2) 問題解決過程との比較 3) 看護理論との関連 4) クリティカルシンキング・科学的思考 3. 倫理観と価値観 <p>II 情報収集</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報源 2. 情報収集方法 3. 目的をもった情報収集 4. 情報収集の枠組みの理解 (ゴードンの機能的健康パターン) <p>III 情報整理(クラスタリング)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報整理 2. 主観的・客観的情報の使い分け 3. 分析、解釈、判断 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分析の視点 2) 情報の意味 3) 推論 <p>IV 問題状況の抽出と統合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護診断との関連 (診断名、診断指標、関連因子) <p>V 解決策の立案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護上の問題と目標 2. 期待される結果 3. 具体策の立案 4. 評価 5. 1～4の一貫性・関連性 <p>VI 具体策の立案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 具体策 2. SOAP記録 <p>VII 事例展開</p>			<p>自ら考えて看護を行う看護師になるために、思考過程としての看護過程を学ぶ。(講義・演習)</p> <p>看護過程は患者の身体・精神・スピリチュアリティに対して全人的に焦点をあてている。健康問題が患者の安寧や自立にもたらす影響を理解し、健康の保持・増進・予防につながる看護介入が思考できる力を養う。(講義・演習)</p> <p>事例展開を通して、対象理解とクリティークする力を養う。(演習)</p>			
評価方法	筆記試験 100点配点の試験を行い60点以上で単位を認定する。						
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. リンダ・J・カルペニート 看護診断ハンドブック 医学書院 2. 新道幸恵著「ポケット版基準看護計画」 照林社 3. 高木永子他著「看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント」 学研 4. 高久史磨 治療薬マニュアル2019 医学書院 						
参考書	<p>エレインNマリー著 林正健二・浅見一羊他訳 「人体の構造と機能」 医学書院</p> <p>江口正信他著 「検査値早わかりガイド」 サイオ出版</p>						

授業科目	在宅看護特論			担当教員	正木 康子		
開講年次	2年次前期	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 30時間	授業形態	講義
科目概要	地域で生活している在宅療養者とその家族を理解し、在宅看護の機能と役割を理解する。						
授業計画	<p>I 在宅看護の概念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護とは 2. 在宅看護の対象 3. 在宅看護の場と特徴 4. 在宅療養者の権利保障と看護の責務 <p>II 在宅看護の機能と役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の基本 2. 介護保険の仕組みと活用 3. 多職種と社会資源 4. ケアマネジメント 5. 在宅看護の問題と課題 6. 在宅看護における教育指導 <p>III 地域看護活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域を捉える視点 2. 地域における看護活動 3. 在宅ケアのニーズ 			<p>在宅看護の対象は療養者とその家族であることを理解した上で、療養しながら生活する中で抱える問題に目を向け、その人たちに合った解決方法を学ぶ。 (講義・グループワーク)</p> <p>療養者がその人らしく生活していくための地域包括ケアシステムを理解し、在宅看護の機能と多職種と協働する中での看護の役割について学ぶ。 療養者やその家族への指導や相談方法を学ぶ。 (講義・演習)</p> <p>地域アセスメントの方法を知り、地域で展開される看護活動を知る。 (講義)</p>			
評価方法	筆記試験						
教科書	ナーシンググラフィカ ナーシンググラフィカ	在宅看護論① 在宅看護論②	地域療養を支えるケア 在宅療養を支える技術	メディカ出版 メディカ出版			
参考書	「写真でわかる訪問看護」 インターメディカ						

【2年次学習科目】

統合分野

在宅看護論

授業科目	在宅看護援助論			担当教員	正木 康子		
開講年次	2年次後期	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 45時間	授業形態	講義・演習
科目概要	障害または疾患をもちながら在宅で生活する人とその家族に応じた在宅看護の援助技術を習得する。						
授業計画	<p>I 在宅看護活動</p> <p>1. 在宅看護における援助関係の基本</p> <p>2. 訪問看護に求められる基本姿勢</p> <p>II 在宅療養生活を支える看護</p> <p>1. 日常生活援助技術</p> <p>2. 医療管理を必要とする人への看護</p> <p>III 在宅看護を必要とする人への援助</p> <p>1. 病期に応じた看護</p> <p>2. 特徴的な疾病がある療養者への看護</p> <p>3. 看護過程</p> <p>1) ALSの療養者</p>			<p>訪問時のマナーや在宅看護を行ううえで援助関係が成立するための倫理的行動がとれるようにロールプレイングを取り入れて学びを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なマナー ・訪問中の態度 ・在宅看護における看護師の責任 ・その他 <p>(講義・演習)</p> <p>在宅における日常生活援助に必要な援助技術を学ぶ。 在宅で行われる医療処置の方法を学ぶ</p> <p>(講義・演習)</p> <p>様々な病期や特徴的な疾患をもつ療養者の看護を学ぶ。 療養者が地域で生活していくために、多職種との連携や社会資源の活用方法も取り入れながら、事例を通して看護過程を展開する。</p> <p>(講義・演習・グループワーク)</p>			
評価方法	筆記試験						
教科書	ナーシンググラフィカ	在宅看護論①	地域療養を支えるケア	メディカ出版	ナーシンググラフィカ	在宅看護論②	在宅療養を支える技術 メディカ出版
参考書	「写真でわかる訪問看護」 インターメディカ						

授業科目	災害看護と看護管理			担当 教員	林 カ オ リ ・ 北 林 栄		
開講 年次	3年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業 形態	講義・演習
科目 概要	<p>1. 災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに社会における看護の役割を果たすために、必要な看護活動を理解する。</p> <p>2. チーム医療および他職種との協働の中で、看護活動を円滑に行い適切な看護サービスができるよう、看護管理の基礎を理解する。</p>						
授業 計画	<p>災害看護（17時間）</p> <p>I 災害および災害看護に関する基礎的知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の歴史的展望 2. 災害看護の定義と概要 3. 災害サイクル、災害種類別・対象者別による被害の特徴 4. 災害に関する理論 <p>II 災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備え</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害に関連する法律・制度 2. 国際的支援のしきみ 3. 災害関係機関の支援体制 4. 災害ボランティア活動 <p>III 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害種類別疾患の特徴 2. 災害時の心理 <p>IV 災害時に看護が果たす役割と看護支援活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の基本と看護の役割 2. 災害関連機関との連携 <p>V 演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時に必要な技術（トリアージ・搬送・心肺蘇生法・応急処置） <p>看護管理（12時間）</p> <p>I 看護管理とは</p> <p>II 病院における看護管理</p> <p>III 看護管理の機能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人事管理 2. 業務管理 3. 労務管理 4. 設備・機器の管理 <p>IV 各看護単位での看護管理</p> <p>V 医療チームにおける看護職の協働活動</p>						
評価 方法	筆記試験。本科目の筆記試験は災害看護と看護管理で構成する。災害看護60点、看護管理40点とし、それぞれ60%（36点/24点）以上を合格とする。						
教科書	<p>「看護の統合と実践③ 災害看護」 メディカ出版</p> <p>「看護の統合と実践① 看護管理」 メディカ出版</p>						
参考書							

授業科目	医療と安全 I			担当 教員			
開講 年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業 形態	講義・演習
科目 概要	安全の意義や安全を脅かす諸因子を理解し、医療事故予防に必要な要素を学ぶ。 シミュレーション体験を通して、自己の特性や傾向を知る。						
授業 計画	<p>I. 医療安全の概念 (8時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全とは 2. 医療事故の種類 3. 医療事故の動向 4. ハインリッヒの法則 <p>II. 人間はミスをする存在である</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私の特性 2. 人間の特性 <p>(こじつけ解釈、期待聴取)</p> <p>III. なぜ人間はエラーをするのか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンエラーのメカニズム 2. ルールを守らないこととリスク <p>IV. 人間が犯すエラーを防ぐ方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フォーグスによる事故予防の仕掛け 2. スイス・チーズモデルの視点とシステム改善 3. メタ認知と自己モニタリング <p>V. 事故要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の身体的要因 2. 心理社会的要因 3. 環境要因 4. 治療に伴う要因 5. 看護師要因 <p>VI. 事故分析方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SHELモデル 2. 4M-4E方式 3. RCA (根本原因分析) 4. マクロ的分析 5. Medical Safe <p>VII. 安全教育シミュレーション体験 (6時間)</p>			<p>現在の医療における医療事故の実態を知り、人間がミスをする存在であることを認識する。 日本文化の「隠す」「言い控える」、人間の記憶・注意・イメージの特性など人間の特性と環境の作用の中で起こる結果について理解し、医療者が自己モニタリングやメタ認知力を働かせ安全意識の高い組織を築き、患者主体に考えた危険回避行動を学ぶ。</p> <p>行動の単純化や標準化の必要性、立ち止まり考えること及び自己の客観視・自己の傾向を理解し、エラーを防ぐ方法を学ぶ。</p> <p>安全は、人間の注意に頼る方法では不十分である。事故の現象から見える背後要因を理解しシステム改善の必要性を学ぶ。</p> <p>安全な看護実践に必要な倫理(代弁や表現支援、有益性・危険性の説明、情報提供などの能力)判断(危険因子の査定、危険の予測などの能力)技術(自己モニタリング)について体験を通して学ぶ。</p>			
評価 方法	筆記試験、シミュレーション体験の参加度						
教科書	松下由美子 著「ナースンググラフィカEX1 医療安全」 川村 治子 著「医療安全ワークブック」			メディカ出版 医学書院			
参考書	河野龍太郎 著「医療におけるヒューマンエラー なぜ間違える どう防ぐ」医学書院						

【2年次学習科目】

統合分野

看護の統合と実践

授業科目	医療と安全Ⅱ			担当 教員			
開講 年次	2年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業 形態	講義・演習
科目 概要	危険を予測し、対象の安全・安楽を思考するために必要な能力を養う。 シミュレーション体験を通して、危険回避に必要な判断力を養う。						
授業 計画	<p>I. 危険回避の看護実践 (8時間)</p> <p>1. 危険予知トレーニング</p> <p>2. 事例検討</p> <p>1) 背後要因の抽出</p> <p>2) 危険回避の対策</p> <p>(1) 一連の行為を分断しない</p> <p>(2) 確認の実施 (6R)</p> <p>(3) 危険回避のためのコミュニケーション</p> <p>(4) 危険を回避するための自己コントロール</p> <p>3. 職業倫理(安全教育指導指針)</p> <p>II. 安全教育シミュレーション体験 (6時間)</p>			<p>医療安全には認知・予測、安全の優先、気付き、できる能力、事故検出策、備えなどが必要である。</p> <p>本校の安全教育の基本である指導指針から安全な看護実践に必要な能力を理解する。また、演習を通して思考力を働かせ、安全・安楽、危険回避対策について学ぶ。</p> <p>安全な看護実践に必要な倫理(有益性・危険性の説明、情報提供などの能力)判断(批判的思考、発言・主張するなどの能力)技術(観察・判断の確かさの追及、自己モニタリング)について体験を通して学ぶ。</p>			
評価 方法	筆記試験、シミュレーション体験の参加度						
教科書	「ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」 メディカ出版 「医療安全ワークブック」 医学書院						
参考書	「医療におけるヒューマンエラー なぜ間違える どう防ぐ」 医学書院						

【3年次学習科目】

統合分野

看護の統合と実践

授業科目	医療と安全Ⅲ			担当 教員			
開講 年次	3年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 15時間	授業 形態	講義・演習
科目 概要	事故分析に関する方法を学び、危険なものを安全なものに変えるという認識とともに、安全・安楽、危険回避対策について学ぶ。 シミュレーション体験を通して、事故防止のための対処行動ができる。						
授業 計画	<p>I. 危険回避の看護実践（8時間）</p> <p>1. 事例検討（RCA）</p> <p>II. 安全を保証する組織</p> <p>1. 職業倫理と法的責任</p> <p>2. チームの役割</p> <p>III. 患者に与える影響の優先</p> <p>1. 患者主体の医療安全</p> <p>2. 自己決定の支援</p> <p>IV. 安全教育シミュレーション体験（6時間）</p>			<p>医療安全には認知・予測、安全の優先、気付き、できる能力、事故検出策、備えなどが必要である。演習を通して思考力を働かせ、安全・安楽、危険回避対策について学ぶ。</p> <p>安全意識の高い組織づくりに参加する自己の責任を理解し、患者及び患者を取り巻く人・環境の特性がマイナスで現れないよう、システムで考える必要性を学ぶ。</p> <p>安全な看護実践に必要となる倫理・判断（特に優先順位）技術（確実な看護行為と自己モニタリング）について体験を通して学ぶ。</p>			
評価 方法	事故分析シートの提出、シミュレーション体験の参加度						
教科書	松下由美子 著「ナースンググラフィカEX1 医療安全」 メディカ出版 川村 治子 著「医療安全ワークブック」 医学書院						
参考書	河野龍太郎 著「医療におけるヒューマンエラー なぜ間違える どう防ぐ」 医学書院						

授業科目	看護セミナー I			担当 教員	林 カオリ ・ 高 嶋 愛 里		
開講 年次	2年次 前期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1 単位 30時間	授業 形態	講義・討議
科目 概要	1 集団におけるメンバーシップ、リーダーシップについて理解する。 2 国際看護の実際を知り、国際看護活動をするための基礎的な方法を理解する。						
授業 計画	I リーダーシップとフォロアーシップ (2時間) 1. フォロワーシップ＝「従支性・従支力」 2. ドラッカー リーダーシップ論 II 国際看護 (6時間) 1. 看護基礎教育における国際看護とは 2. 異文化理解と国際協力 3. 国際医療 1) 国際医療と組織 (WHO, ODA, JOCV, JICA, NGO) 2) 海外における医療 (災害医療) 3) 国内の在日外国人に対する医療 4) 感染症、産科、乳幼児 4. 国際看護活動の支援を必要とする看護 1) 海外における看護活動 2) 国内の在日外国人に対する看護 5. 異文化理解と国際看護 1) 外国人看護師 2) 文化を考慮した看護 3) 国際看護活動に必要な能力 6. 国際看護活動の実際 III グループワークとプレゼンテーション (10時間) 1) 国際看護活動の取り組み 2) 私たちにできる国際看護活動 IV 国際交流会へ参加 (4時間)						
評価方法	グループワークの参加状況、レポート						
教科書	「新体系 看護学全書39 看護の統合と実践③ 国際看護学」メヂカルフレンド社						
参考書等							

授業科目	看護セミナーⅡ			担当教員	正木 康子																				
開講年次	3年次前・後期	選択必須	必須	単位数 時間数	1単位 30時間	授業形態	学内実習・演習																		
科目概要	既習の知識と技術を統合し、看護実践に必要な基礎的看護技術を習得する。																								
授業計画	<p>学習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人で安全・安楽な看護実践に必要な学習を行い、理解度を高める。 2. 個々の学習内容をグループで共有し、実施項目について必要内容を共通理解する。 3. グループで合意が得られた内容から看護計画を立案する。 4. 看護計画に沿って演習実施後、実施記録を各自で記載し振り返りを行う。 5. 筆記試験で知識を確認する。 6. 技術チェックで知識と技術を確認する。 <p>学習内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1回目</td> <td>科目のオリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2・3回目</td> <td>経鼻胃チューブの挿入・確認</td> </tr> <tr> <td>4・5回目</td> <td>皮下・筋肉・点滴静脈内注射に関する学習 経鼻胃チューブ・与薬</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>筆記試験（90分）</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>結果の振り返りと学習</td> </tr> <tr> <td>8～10回目</td> <td>AEDに関する学習 静脈内採血に関する学習</td> </tr> <tr> <td>11～12回目</td> <td>AED・静脈内採血について演習</td> </tr> <tr> <td>13回目</td> <td>筆記試験（90分）</td> </tr> <tr> <td>14・15回目</td> <td>技術チェック</td> </tr> </table>							1回目	科目のオリエンテーション	2・3回目	経鼻胃チューブの挿入・確認	4・5回目	皮下・筋肉・点滴静脈内注射に関する学習 経鼻胃チューブ・与薬	6回目	筆記試験（90分）	7回目	結果の振り返りと学習	8～10回目	AEDに関する学習 静脈内採血に関する学習	11～12回目	AED・静脈内採血について演習	13回目	筆記試験（90分）	14・15回目	技術チェック
1回目	科目のオリエンテーション																								
2・3回目	経鼻胃チューブの挿入・確認																								
4・5回目	皮下・筋肉・点滴静脈内注射に関する学習 経鼻胃チューブ・与薬																								
6回目	筆記試験（90分）																								
7回目	結果の振り返りと学習																								
8～10回目	AEDに関する学習 静脈内採血に関する学習																								
11～12回目	AED・静脈内採血について演習																								
13回目	筆記試験（90分）																								
14・15回目	技術チェック																								
評価方法	学習レポート（40%）、筆記試験（50%）、技術チェック（10%）で評価する。合計100点満点とし、60%（60点）を合格とする。																								
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器」医学書院 「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」医学書院 「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学」医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」医学書院 「わかりやすい栄養学 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際」ヌーベルヒロカワ 「ナーシンググラフィカ 医療安全」メディカ出版 「医療安全ワークブック」医学書院																								
参考書等	「看護師国家試験出題基準」他、授業で適宜紹介する。																								

授業科目	基礎看護学実習 I			担当 教員	神山 恵子		
開講 年次	1年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	1単位 45時間	授業 形態	臨地実習
科目 概要	<p>1. 患者および家族に応じたコミュニケーション・日常生活の援助技術を習得する。 2. 保健・医療・福祉チームの一員としての基本的態度を身につける。</p>						
授業 計画	<p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者および家族に応じたコミュニケーションができる。 2. 患者に応じた安全・安楽な援助が実践できる。 3. 保健、医療、福祉のチームの一員としての自覚と責任を養うことができる。 4. 学生としての責任ある行動をとり、自己成長への努力ができる。 5. 自己の看護観を考えることができる。 <p>展開方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活行動に問題を持つ患者を1名受け持つ。 2. 学内で学んだコミュニケーション技術を用い患者との効果的なコミュニケーションの方法を体験する。 3. 対象患者の情報収集を行い援助の必要性を理解し、日常生活援助を計画・実施する。(基礎看護学実習 I 記録用紙を用いる) <p><実習場所></p> <p>公立甲賀病院 2階西病棟・2階東病棟・3階西病棟・3階東病棟・4階西病棟 5階西病棟・5階東病棟</p>						
評価 方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書等							

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ			担当 教員	林 カ オ リ		
開講 年次	2年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業 形態	臨地実習
科目 概要	療養生活をする患者の健康問題について系統的、科学的にアセスメントする方法を学ぶ。また、健康障害を持つ患者に応じた援助を実施する。						
授業 計画	<p>目標 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害がある患者の状況を理解することができる。 2. 健康障害のある患者に応じた看護過程の展開ができる。 3. 患者に応じた援助ができる。 4. 医療チームの一員としての基本的態度を身につけることができる。 5. 学生としての責任ある行動をとり、自己成長への努力ができる。 6. 看護に対する考えを深めることができる。 <p>展開方法 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活行動に問題を持つ患者を1名受け持つ。 2. 看護過程を活用し看護を導き出す。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 収集した情報を各健康機能パターン毎に整理する。 2) 患者にとって主要な健康機能パターンの情報を分析する。 3) 問題状況を抽出し、看護上の問題を統合する。 3. 実習期間を通して患者に応じた安全・安楽・自立を考慮した日常生活援助を実施する。(基礎看護学実習記録用紙を用いる) <p><実習場所></p> <p>公立甲賀病院 3階東病棟、3階西病棟、4階西病棟、5階東病棟、5階西病棟 独立行政法人国立病院機構紫香楽病院 2階病棟、3階病棟</p>						
評価 方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書							

授業科目	成人看護学実習 I			担当 教員	森 地 香 織		
開講 年次	2年次 後期	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業 形態	臨地実習
科目 概要	日常生活行動に障害がある患者を理解し、日常生活や残存機能維持・拡大に必要な看護が実践できる能力を習得する。						
授業 計画	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上に課題がある対象の身体的・精神的・社会的特徴を統合的に理解できる。 2. 科学的思考に基づき、対象の健康レベルに応じた個別的な看護が実践できる。 3. 対象を尊重し、円滑な人間関係を築くことができる。 4. 社会資源を活用するための看護の役割を考え、医療チームの一員として認識をもった行動ができる。 5. 成人看護の体験を通して、自己の看護観を深めることができる。 <p>展開方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活行動に障害がある患者を受け持つ。 2. アセスメントツールに従い情報の整理・分析を行う。 3. 対象の問題状況を抽出し、看護上の問題を統合する。 4. 統合された看護上の問題から1～2つの#を選択しそれぞれ看護計画を立案する。 5. 立案した看護計画に基づいて看護を実施する。 6. 対象の状態や反応から解決策を修正し、援助を行う。 7. 日々の解決策を評価し、看護計画を評価・修正する。 <p><実習場所></p> <p>公立甲賀病院 2階東病棟、5階東病棟、5階西病棟、4階西病棟、3階西病棟、 独立行政法人国立病院機構紫香楽病院 2階病棟、3階病棟</p>						
評価 方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書							

授業科目	成人看護学実習Ⅱ			担当教員	後村 敦子		
開講年次	3年次	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業形態	臨地実習
科目概要	<p><手術による生体侵襲を受ける人の看護> 成人看護学特論・成人看護学援助論をふまえ、全身麻酔下の手術を受ける対象を理解し、生命維持と苦痛緩和への援助ができる。</p>						
授業計画	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法を受ける対象を統合的に理解できる。 2. 手術を受ける対象に生命の維持と苦痛緩和のための看護ができる。 3. 保健・医療・福祉における看護の役割を考え、医療チームの一員であることを認識した行動ができる。 4. 急性期の看護に対する考えを深めることができる。 <p>展開方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントツールに従い情報の整理・分析を行う。 2. 対象の問題状況を抽出し、看護上の問題を統合する。 3. 生命維持・苦痛緩和に必要な対象の看護計画を立案する。 4. 立案した看護計画に基づいて、看護を実施する。 5. 対象の看護上の問題が早期に解決するよう看護計画を修正する。 6. 優先度の高い看護上の問題から解決に向けて援助を実践する。 7. 日々の解決策を評価し、看護計画を修正する。 <p>実習場所</p> <p>公立甲賀病院 3階東病棟、手術室(見学) ICU(受け持ち患者が入室の場合、実習の状況に応じて)</p>						
評価方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書	成人看護学援助論Ⅱで学習した文献、資料、教科書。成人看護学援助論Ⅴで学んだパーパレイシエントの看護過程。成人看護学特論・援助論の資料や教科書						

授業科目	成人看護学実習Ⅲ			担当教員	森地香織		
開講年次	3年次	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業形態	臨地実習
科目概要	<p><慢性的な疾病や障害で機能的・形態的に完全治癒の望めない状態にある対象の看護> 慢性期及び終末期にある対象を理解し、成長・発達・適応の可能性を最大限引き出す援助ができる。</p>						
	<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な疾病や障害で機能的・形態的に完全治癒の望めない状態にある対象の状況を述べることができる。 2. 慢性的な疾病や障害で機能的・形態的に完全治癒の望めない状態にある対象に成長・発達・適応の可能性を最大限引き出す看護ができる。 3. 保健・医療・福祉における看護の役割を考え、医療チームの一員であることを認識した行動ができる。 4. 慢性的な疾患や障害で機能的・形態的に完全治癒の望めない状態にある対象の看護に対する関心を深めることができる。 <p><展開方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントツールに従い情報の整理・分析を行う。 2. 対象の問題状況を抽出し、看護上の問題を統合する。 3. 成長・発達・適応に必要な対象の看護計画（Ⅳ号用紙）を立案する。 4. 立案した看護計画に基づいて、看護を実施・評価する。（Ⅴ号用紙）（必要に応じ計画を修正・変更する。） 5. 優先度の高い看護上の問題から解決に向けて援助を実践する。 6. 日々の看護を評価し、看護計画（解決策）を修正する。 <p><実習場所></p> <p>公立甲賀病院 5階東病棟、4階西病棟</p>						
評価方法	評価表に基づき評価する。						
教科書	基礎看護学援助論で学習した文献、資料。 病態論、成人看護学特論・援助論のテキストや資料など。						
参考書							

授業科目	老年看護学実習Ⅰ			担当 教員	窪田 祥子		
開講 年次	2年次	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業 形態	臨地実習
科目 概要	<p>1. 老年看護学実習はⅠとⅡに分け、Ⅰは2年次に、Ⅱは3年次に行う。</p> <p>2. 老年看護学実習Ⅰでは、地域で暮らす元気で活動的な高齢者の生活を学び、介護老人福祉施設または介護老人保健施設等で認知症高齢者との関わり方を学ぶ。</p>						
授業 計画	<p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象の発達段階を捉え、老化に伴う変化を理解することができる。 対象の健康状況、日常生活行動を把握し生活背景や生活習慣との関連を理解する。 対象のセルフケア能力をふまえ、残存機能を生かした日常生活援助ができる。 対象の生活歴を理解し、生活信条・価値観を尊重し良好な人間関係を築くことができる。 対象との関わりを通して、自己の老年観を発展させることができる。 <p>展開方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 元気で活動的な高齢者を理解するために、地域での活動に参加し高齢者と交流する。 認知症高齢者の症状や日常生活を理解するために、施設で5日間認知症高齢者を受け持ち、コミュニケーションや日常生活援助を体験する。 デイサービスまたはデイケアにおける看護師の役割と、利用する高齢者の概要を理解するために、3日間デイサービスまたはデイケアで実習する。 <p>1週目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域での活動に参加できる実習の予定に沿って、高齢者と交流をする。 グループ別に分かれて参加する活動もある。 交流での学びをまとめ、発表する。 <p>2・3週目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設において5日間認知症高齢者を受け持ち、コミュニケーションや日常生活援助を体験する。 原則として受け持ち利用者以外の援助は行わないが、コミュニケーションを通して他の利用者の認知症の症状や関わり方も学ぶ。 デイサービスまたはデイケアで3日間実習する。 						
評価 方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書							

授業科目	老年看護学実習Ⅱ		担当教員	窪田 祥子			
開講年次	3年次	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業形態	臨地実習
科目概要	<p>1. 老年看護学実習はⅠとⅡに分け、Ⅰは2年次に、Ⅱは3年次に行う。</p> <p>2. 老年看護学実習Ⅱでは、病院において健康障害や生活行動に障害のある高齢者の看護を学ぶ。</p>						
授業計画	<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 対象の発達段階を捉え、老化に伴う変化を理解することができる。 対象の健康状況、日常生活行動を把握し、生活背景や生活習慣との関連を理解する。 対象のセルフケア能力をふまえ、残存機能を生かした日常生活援助ができる。 健康を障害された高齢者を統合的に理解し、健康レベルに応じた援助ができる。 対象を取り巻く環境を捉え、保健・医療・福祉の連携における看護の役割を理解し、チームの一員としての行動がとれる。 対象の生活歴を理解し、生活信条・価値観を尊重し良好な人間関係を築くことができる。 対象との関わりを通して、自己の老年観を発展させることができる。 <p><展開方法></p> <p>1週目</p> <ol style="list-style-type: none"> 病棟の特徴や受け持ち患者の入院生活を理解する。 病棟の看護計画に沿い、看護を実践し、対象を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の看護に必要な情報を収集し、分析・解釈・統合する。 看護上の問題の優先順位を明確にし、看護の方向性を確認する。 <p>2週目</p> <ol style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の看護目標を設定し、立案した看護計画に沿い看護を実践する。 実施した看護を評価し、必要に応じて計画を修正する。 自己の中間評価を行い、個人面接を通して今後の課題を明確にする。 <p>3週目</p> <ol style="list-style-type: none"> 実施した看護を評価し、必要に応じて計画を修正する。 実習の自己評価を行い、学んだことを確認する。さらに今後の課題を明確にする。 						
評価方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書							

授業科目	小児看護学実習			担当 教員	植野 ルミ		
開講 年次	3年次	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業 形態	臨地実習
科目 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学実習は、3年次に行う。 ・小児看護学実習は、保育園実習で健康な乳幼児の成長発達を理解する。 小児科病棟実習では健康を障害されさまざまな健康段階にある子どもとその家族に対し個別性のある看護を学ぶ。 重症心身障害児病棟実習では心身に障害を持った子どもやそれを取り巻く環境について理解し援助の方法を学ぶ。 						
授業 計画	<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの特徴を理解し、成長発達を促進するために必要な援助を実施できる。 2. 子どもとその家族を統合的に理解し、健康問題に応じた看護過程の展開ができる。 3. 小児看護に必要な基本的看護技術を習得する。 4. 子どもとその家族を尊重し、円滑な人間関係を築くことができる。 5. 子どもを取り巻く環境を捉え保健・医療・福祉・教育の連携における看護の役割を理解し、チームの一員として責任ある行動が取れる。 6. 自己の子ども観を養い、小児看護に対する関心を深めることができる。 <p><展開方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育園実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 園の保育活動スケジュールに沿い、担当するクラスの保育活動に参加する。 2) 積極的に担当クラスの幼児と関わり健康な幼児の成長発達や生活習慣を観察する。 3) 各年齢に応じた養護の実際を見学し発達段階に応じた生活の援助を一部実施する。 4) 多くの子どもたちと積極的にコミュニケーションをとり、共に遊ぶ。 2. 小児科病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患児が決定次第、看護師とともに援助に参加しながら情報を収集し患児の全体像を把握する。 2) 病棟の看護計画に基づいて、援助の具体策を立案、実施し、援助の評価と具体策の修正を行う。 3) 受け持ち患児がいない期間は、機能別実習として別の対象で援助技術の見学や実施を行う。 4) 実習期間中、3時間程度の外来実習を行い外来看護の実際を見学する。 3. 重症心身障害児病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 重症心身障害児の入院生活の環境を見学し、特殊性とその必要性を考える。 2) 児とのコミュニケーションや遊び、さらに、生活場面（日常生活援助や養護学校での学習など）の見学を行う。 3) 援助の根拠を考えながら病棟の計画に基づいて日常生活援助の一部介助を実施する。 <p><実習場所></p> <p>甲賀市水口西保育園、甲賀市水口東保育園、甲賀市伴谷保育園、甲賀市岩上保育園 公立甲賀病院 2階西病棟 独立行政法人国立病院機構紫香楽病院 1階病棟</p>						
評価 方法	評価表に基づき評価する						
教科書							
参考書							

授業科目	母性看護学実習		担当教員	宇野 三奈子			
開講年次	3年次	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業形態	臨地実習
科目概要	母性看護学実習は妊婦・産婦・褥婦および新生児が正常な経過をたどるための援助を学ぶ実習とする。						
授業計画	<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠・分娩・産褥各期の母性および新生児の生理的变化と心理・社会的特徴について理解できる。 2 妊娠・分娩・産褥各期の母性および新生児の看護の必要性を理解し、基本的な援助ができる。 3 母子相互作用を理解し、母親としての健康な生活の維持や母子関係成立・母親役割習得への援助ができる。 4 母子の健康な生活を継続させるために、地域社会や関連諸機関との連携・社会資源の活用方法が理解できる。 5 生命の尊厳や、自己の母性に対する考え方（母性観・父性観）を深めることができる。 6 母子・家族および医療チームと良い人間関係を保つことができる。 <p><展開方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母性看護学実習は、病院実習90時間（病棟と外来）で構成する。 2 妊娠・分娩・産褥の経過および新生児の生理的变化を理解し、母子および夫・家族に必要な看護の実際を学ぶ。 <p>1 週目</p> <ol style="list-style-type: none"> ①病棟の特徴を理解する。 ②受け持ちの対象となる褥婦・新生児又は妊婦がいる場合は受け持ちを開始する。 ③看護計画立案までは病棟の看護計画に基づいて褥婦・新生児又は妊婦に援助を実施する。 ④受け持ちの対象となる褥婦・新生児がいない場合は仮受け持ちをして援助の見学と実施をする。 ⑤分娩があれば見学（立ち会い、スタッフと共に看護）をする。 <p>2・3 週目</p> <ol style="list-style-type: none"> ①外来実習（妊娠期）を1回以上行い妊婦の看護を学ぶ。 ②褥婦・新生児又は妊婦を受け持ち、看護計画を立案する。新生児の援助は病棟の看護計画に準じて行う。 ③立案した看護計画に基づいて看護を実施する。 ④分娩があれば見学（立ち会い、スタッフと共に看護）をする。 <p><実習場所></p> <p>公立甲賀病院 2階東病棟 公立甲賀病院 産婦人科外来</p>						
評価方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書							

授業科目	精神看護学実習			担当教員	田井中 彰二		
開講年次	3年次	選択必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業形態	臨地実習
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学実習は、3年次に行う。 ・精神看護学実習は、精神障害のある人の看護を学ぶ実習とする。 						
授業計画	<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害のある患者を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。 2. 精神障害によって生じる日常生活の問題を把握し、社会生活適応に向けた看護が実践できる。 3. 患者とのコミュニケーションを通し、治療的関係としての患者-看護者関係を築くことができる。 4. 精神科病棟の治療環境を学び、安全な環境調整における看護の役割が理解できる。 5. 社会資源を活用するための看護の役割を考え、医療チームの一員としての認識もった行動ができる。 6. 精神看護の体験を通し自己の看護観を深めることができる。 <p><展開方法></p> <p>1週目</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 病棟の特徴と院内の施設を知り、患者の治療環境としての病院・病棟の特性を理解する。 (2) 病棟の看護計画に基づいて、患者とのコミュニケーションや日常生活援助を実施する。 (3) 患者の言動の意味を考えるとともに、自己の感情を顕在化させたり自己の傾向を自覚したりしながらコミュニケーションを実施する。 <p>2週目</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 患者の情報収集・分析を行い、看護計画を立案する。 (2) 立案した看護計画に基づいて、コミュニケーションや日常生活援助を実施する。 (3) レクリエーションを計画・実践する。 (4) 社会復帰施設の実際を知り、看護の役割を理解する。 <p>3週目</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 立案した看護計画に基づいて看護を実施する。 (2) 実施した看護を評価し、必要に応じて計画を修正する。 (3) 実習を自己評価し、学んだことを確認するとともに今後の課題を明確にする。 <p><実習場所></p> <p>実習病院 水口病院2M・3M・4M病棟</p> <p>社会復帰施設 デイケア（水口病院内） 精神障害者生活訓練施設（援護寮）：しろやまコミュニティーハウス 精神障害者地域生活支援センター：地域生活支援センターしろやま 精神障害者授産施設：社会福祉法人 わたむきの里福祉作業所</p>						
評価方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書							

授業科目	在宅看護論実習			担当 教員	正木 康子		
開講 年次	3年次	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業 形態	臨地実習
科目 概要	在宅看護論実習は地域での健康生活を支える健康のしくみや疾病を持ちながら在宅で療養する人々の看護の基本を学ぶために実習を行う。						
授業 計画	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域保健活動の機能と役割を理解し、地域で生活している人々の健康の維持、増進、疾病予防のための援助方法がわかる。 2. 在宅療養者とその家族の現状が理解できる。 3. 訪問看護で行われている援助が理解できる。 4. 在宅療養者とその家族を尊重し、倫理的判断に基づいた行動がとれる。 5. 社会資源の活用と関係機関との連携について理解できる。 6. 訪問看護を通し、自己の看護観を深める。 <p>展開方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1週：保健センター <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健センター事業に参加する <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康づくりの推進 (2) 母子保健対策 (3) 成人・老人保健対策 (4) その他 2. 第2、3週：訪問看護ステーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護に同行する <ol style="list-style-type: none"> (1) 訪問する療養者の情報収集をする (2) 訪問看護に同行し、看護の実際を見学する (3) 訪問後に訪問看護記録を書く (4) ケースカンファレンスがあれば参加する (5) 訪問看護実習を自己評価し、学んだことを確認するとともに今後の課題につなげる 3. 在宅介護センター（訪問入浴） <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問入浴に同行する <ol style="list-style-type: none"> (1) 訪問入浴の実際を見学する 4. 地域連携室 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域連携業務の説明を受ける <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域連携業務の実際を学び、事例検討をする <p>実習場所 保健センター（甲賀市 湖南市）、アサヒサンクリーン在宅介護センター甲賀 公立甲賀病院（訪問看護ステーション：サテライトを含む、地域連携部） 生田病院（こうせい訪問看護ステーション、地域連携室）</p>						
評価 方法	評価表に基づき評価する。						
教科書							
参考書等							

授業科目	統合実習			担当 教員	田井中 彰二		
開講 年次	3年次	選択 必須	必須	単位数 時間数	2単位 90時間	授業 形態	臨地実習
科目 概要	<p>1. 統合実習は3年次の全ての領域実習終了後に行う。</p> <p>2. 統合実習は複数の受け持ち患者の状況および援助の優先度を判断しながら、対象に応じた看護を行う実習とする。</p>						
授業 計画	<p><実習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の受け持ち患者の健康障害について述べるができる。 2. 受け持ち看護師が立案した看護計画に基づいて具体策の立案・修正・評価ができる。 3. 立案・修正した具体策に基づいて援助ができる。 4. 患者および家族を尊重し、良好な人間関係を築くことができる。 5. 看護チームの一員としての認識をもった行動ができる。 6. 看護に対する考えを述べるができる。 <p><実習展開方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期・老年期にある軽傷もしくは臥床状態の患者を2名同時に受け持つ。患者が退院時は別の患者を受け持ち、常時2名を受け持つ。 2. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1週目 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟の特徴や患者の入院生活を理解する。 2) 病棟の看護援助に参加しながら情報を収集し、患者の全体像を把握する。 3) 病棟の看護計画に基づいて、看護師と共に複数患者の日常生活援助を実施、および評価、修正をする。 4) 2日間連続して夜間実習（15：00～20：00）を木・金曜日から行う。 2～3週目 <ol style="list-style-type: none"> 1) 解決策に基づいて看護師とともに複数患者の日常生活援助を実施する。 2) 優先度を考え、複数患者の援助を実施する。 3) 必要時、受け持ち患者の看護上の問題についてチームカンファレンスで検討する。 4) 2日間連続して夜間実習（15：00～20：00）を行う。 5) 2週目のいずれかの日に中間評価を行い、実習後半の課題を明確にする。 6) 最終日には3週間の実習を自己評価し、学びと今後の課題を確認する。 <p><実習場所> 公立甲賀病院 2階西（小児科を除く）・3階西・3階東・4階西 4階東・5階西・5階東病棟</p>						
評価 方法	評価表に基づく						
教科書							
参考書							